

五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本模型ノ目錄
生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族稱、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

- 一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者
 - 二 高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者
 - 三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者
 - 四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
 - 五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 前項ノ資格試驗ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ入學前ニ於ケル學業成績ト中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ行フ試驗ノ成績トヲ併セ考查シテ

入學者ヲ選拔スヘシ但シ試驗ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

前項ノ考查ノ外必要アリト認ムルトキハ入學志願者ニ對シテ人物考查ヲ行フコトヲ得

第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ身體檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノニ限り入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタルモノト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ學籍ヲ失ヒタル者其ノ學籍ヲ失ヒタル時ヨリ二年以内ニ再入學ヲ志願シタルトキハ詮衡ノ上當該學年又ハ翌學年ノ學年ノ始ヨリ三十日以内ニ於テ同一學年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校高等科各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハザルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書、專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ、尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラザル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 豫科

第五十七條 高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 學年、學期及休業日ニ關スル事項

二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 授業料、入學料等ニ關スル事項

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和六年文部省令第七號)

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三 高等學校高等科入學資格試驗規程

文部省令第九號(大正八年三月) (大正十五年二月省令第七號昭
和十年同第四十五號改正)

第一條 高等學校規程第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試驗ヲ受ケントスル者ハ年齡滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全、品行方正且現ニ中學校ニ在學セサルモノタルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試驗ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條 試驗ハ中學校第四學年マテノ學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ
但シ實業、音樂、作業科及體操ハ之ヲ除ク

第四條 專門學校入學者檢定規程第七條第二項又ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ヲ有ス
ル者ニシテ試驗ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス專門學校入學者檢定規程第八條ニ依リ試驗ヲ
免除セラル、者ニ付亦同シ

第五條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 高等學校高等科入學資格試驗ノ問題答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第七條 中學校ニ於テハ本令ノ試驗ニ付試驗手数料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四 文部省直轄諸學校生徒他ノ直轄諸學校へ入學方

文部省令第十八號(明治三十)

(八年十月)

(昭和四年二)

(十一號改正)

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試驗ヲ受ケタルトキハ
其ノ入學試驗ハ無効トス

第五 教授 要 目

文部省訓令第一號(大正十一年)

(二月)

自然科學教授要目

第一學年(生物及地質)(約六十時間)

- 一 自然科學ノ意義
- 二 生物ト無生物、動物ト植物
- 三 生物ノ起原
- 四 生物體ノ構造(細胞、組織、器管、器管系)、
生物ノ高等下等
- 五 生物分類學ノ概念
- 六 生理作用一般(營養、呼吸、排泄、酵素、毒
素、反毒素、免疫、内分泌、刺戟、趨向性等)
- 七 生殖作用(生殖細胞、無性生殖、有性生殖、
性ノ決定)雌雄ノ分化
- 八 生物ノ個體發生及成熟期
- 九 生物ノ壽命ト死
- 一〇 變異及遺傳(遺傳現象、純系及雜系、實驗遺
傳學、遺傳法則、遺傳物質ト細胞)
- 一一 品種改良、優生學
- 一二 生物ト環境(生物相互ノ關係、生物ノ生態的
及地理的分布)
- 一三 生物ノ進化及進化說
- 一四 動物ノ智能ノ發達
- 一五 人類ノ起原及發達

- 一六 人類ト他ノ生物トノ關係
- 一七 太陽系及其ノ一員トシテノ地球、太陽系生成ニ關スル學說
- 一八 地球ノ現今ノ狀態（氣圈、水圈、岩石圈、重圈）、重圈ニ關スル學說
- 一九 地殼ノ構造（水成岩、火成岩、變成岩ノ成因、特性及現出狀態、主ナル岩石ノ實例、岩漿分

- 化ノ現象）
- 二〇 地殼ノ變動（內因的及外因的の地質作用）
- 二一 地史學概論（前かむぶりあ時代附あるごんきあ時代ノ生物、古生代、中生代及新生代ト各時代ノ生物）
- 二二 人類ト鐵物界トノ關係
- 二三 概括

備考

本要目ハ自然科学ノ教授上主トシテ準據スヘキ生物及地質ニ關スル主ナル教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ教材ノ選擇及排列ハ必スシモ之ニ據ルヲ要セス殊ニ本要目ニハ生物ニ關スル事項ト地質ニ關スル事項トハ其ノ授業擔任者ヲ異ニスル場合ヲ考慮シ地質ニ關スル教材ヲ終リニ纏メテ配置シタレトモ同一教員ニテ全部ヲ受持ツ場合ニハ地質ニ關スル教材ヲ其ノ生物ニ關スル教材トノ關係ヲ參酌シテ適宜分配シ教材排列順ノ統一ヲ圖ルモ可ナリ

第二學年（物理及化學）（約九十時間）

物 理

- 一 自然科学ニ於ケル物理学ノ位置

- 二 物理学ノ分類ト其ノ概要
- 三 定律ト假說
- 四 ニュートンノ運動ノ定律並其ノ論據
- 五 萬有引力ノ定律並其ノ論據
- 六 時間及時刻
- 七 天體現象
- 八 えねるぎ
- 九 熱力学ノ大要
- 一〇 分子運動說
- 一一 波 動
- 一二 光学ノ大要（反射、屈折、光ノ速度、干涉、偏光、すべくとる、輻射、吸收、廻折等）
- 一三 磁氣及靜電氣
- 一四 電流（抵抗、熱作用、磁氣作用、機械的作用、電磁感應、直流並交流等）

- 一五 電氣振動、電磁波
- 一六 光ノ理論ノ變遷
- 一七 氣體ノ電氣傳導、真空放電（陰極線、X線等）
- 一八 電 子 論
- 一九 放 射 論
- 二〇 量 子 論
- 二一 自然ノ連續性及不連續性
- 二二 自然界ニ於ケル週期性
- 二三 自然現象ノ可逆及不可逆
- 二四 相 對 論
- 化 學
- 一 自然科学ニ於ケル化學ノ位置
- 二 物質ノ純非
- 三 元素ト化合物、化學量論ノ諸定律
- 四 分子說、原子說、其ノ論據

- 五 化學記號、化學方程式、原子價、構造式
 - 六 炭素ノ化學
 - 七 熱化學(反應熱、發熱反應、吸熱反應等)
 - 八 可逆反應ト不可逆反應、化學平衡
 - 九 活動量ノ定律、フアントフ及ルシヤテリエノ原理
 - 一〇 反應速度論、觸媒
 - 一一 主ナル金屬ノ化學
 - 一二 合 金
 - 一三 溶液、滲透壓
-
- 一四 電氣化學(電解傳導、電池等)
 - 一五 分析化學ノ大要
 - 一六 膠 質 化 學
 - 一七 大 氣
 - 一八 燃 燒 燃 料
 - 一九 化學工業ノ原料ト製品
 - 二〇 油脂、炭水化物、發酵
 - 二一 蛋白質、榮養品、嗜好品
 - 二二 飲料水、用水
 - 二三 呼吸及消化ノ化學

備考

- 一 此ノ要目ハ自然科學ノ教授上主トシテ準據スヘキ物理及化學ニ關スル主ナル教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ教材ノ選擇及排列ハ必スシモ之ニ據ルヲ要セス
- 二 物理ト化學トノ授業時數ハ略同一トシ適宜増減スルモノトス
- 三 此ノ要目ハ現行中學校教授要目ニ據リ第四學年ヲ修了シタル者ヲ標準トシテ作成セリ

文部省訓令第二號(大正十二年) (昭和十二年) (七號改正)

文科數學教授要目

第一學年 (約九十時間)

- 一 幾何及代數ノ補充
 - 平面及直線、多面體、嚮、錐、球
 - 指數及對數、順列及組合、二項定理、確率
 - 二 三 角 法
 - 角ノ測リ方、三角函數、三角形ノ性質、逆三角函數
 - 三 平面解析幾何
 - 坐標、軌跡ノ方程式、直線、圓、橢圓、雙曲線、
- 備考
- 一 此ノ要目ハ教授上主トシテ準據スヘキ教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ其ノ選擇排列ニ就テハ多少ノ斟酌ヲ爲スヲ妨ケス
 - 二 必要ニシテ充分ナル條件、歸納法等ハ適宜ノ場所ニ於テ之ヲ教授スルモノトス
-
- 拋物線ノ主ナル性質
 - 四 微 分 積 分
 - 函數ト其ノくらふ、極限值、連續、微分法、積分法
 - 微分法ノ應用(函數ノ値ノ増減及極大極小、曲線ノ切線及凸凹等)
 - 積分法ノ應用(面積、曲線ノ長サ、體積等)

三 講義ノ進行ニ從ヒ時々練習問題ヲ課スルコトヲ要ス

文部省訓令第二號(大正十三年三月)(昭和十二年七號改正)

圖書教授要目

第一學年(約六十時間)

自在書

鉛筆畫、木炭畫、水彩畫等

幾何畫

一 概 說

製圖ニ關スル一般ノ注意

製圖用器具ノ檢査、修理及使用方法

尺度(普通尺、斜線尺、遊尺等)

二 平面幾何畫

圓錐曲線

高等曲線

第二學年(約六十時間)

三 立體幾何畫

正投影圖

點、線、平面、平面圖形、立體、曲面、

切面、截斷、展開、相貫體

第三學年(約六十時間)

正投影圖

陰 影

附 等角投影圖、平面投影圖

斜投影圖

透視圖

備考

一 此ノ要目ノ外計算尺使用法、圖式計算法、工學製圖ヲ課スルコトヲ得

二 此ノ要目ニ舉ケタル教材ノ取捨排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ加フルコトヲ得

三 第一學年ノ自在書ト幾何畫トノ授業時數ハ略同一トス但シ事情ニ依リ増減スルコトヲ得

文部省訓令第四號(大正十五年三月)(昭和十二年七月七號改正)

理科數學教授要目

立體幾何(約二十時間)

一 直線及平面

二 二面角及多面角

三 多面體(角嚮、角錐、正多面體)

四 直圓嚮及直圓錐

五 球及球面三角形

三角 法(約四十時間)

一角ノ測リ方

二 三角函數

三 三角函數ノ値ノ變化

四 加法定理

五 倍角及分角ノ三角函數

六 逆三角函數

七 三角方程式

八 常用對數

九 對數表及三角表ノ用ヒ方

- 一〇 三角形ノ性質
- 一一 三角形ノ解法及其ノ應用
- 一二 下、モアウルノ定理
- 解析幾何 (約七十時間)
- 平面ノ部
 - 一 平行坐標及極坐標
 - 二 直線
 - 三 圓
 - 四 坐標ノ變換
 - 五 二次曲線ノ分類
 - 六 橢圓、雙曲線及拋物線
 - 七 二次線ノ一般論、直圓錐ノ截面
- 空間ノ部
 - 一 平行ノ坐標及極坐標、坐標軸ノ平行移動
 - 二 直線及平面

- 三 二次曲面ノ種類及母線等
- 代數 (約六十時間)
 - 一 必要ナル條件 充分ナル條件
 - 二 數學的歸納法
 - 三 級數ノ和
 - 四 順列及組合
 - 五 二項定理
 - 六 確率
 - 七 不等式
 - 八 複素數
 - 九 有理整式及代數方程式
- 一〇 對稱式交代式
- 一一 代數方程式ノ變換
- 一二 三次及四次方程式
- 一三 行列式

微分積分 (約百七十時間)

- 一 變數及函數
- 二 極限值及連續
- 三 指數函數 對數函數
- 四 微分係數及微分
- 五 平均值ノ定理
- 六 逐次微分法
- 七 テーコルノ定理
- 八 極大極小
- 九 不定形ノ極限值
- 一〇 方程式論ニ於ケル應用
- 一一 無限級數ノ收斂及發散
- 一二 函數ノ展開
- 一三 對數表及三角表ノ原理

微分積分 (續)

- 一四 多變數ノ函數ノ部分微分法
- 一五 多變數ノ函數ノテーコルノ定理及極大極小
- 一六 陰函數ノ微分法及極大極小
- 幾何學ニ於ケル應用
 - 一 切線及法線
 - 二 漸近線
 - 三 凹凸及彎曲點
 - 四 曲率
 - 五 特異點
 - 六 包絡線
 - 七 縮閉線及伸開線
 - 八 簡單ナル曲線ノ追跡
 - 九 空間曲線ノ切線及法平面
- 一〇 曲面ノ切平面及法線

- 一 不定積分
- 二 定積分
- 三 重積分

備考 此ノ要目ハ教授上主トシテ準據スヘキ教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ其ノ選擇排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ爲スヲ妨ケス

力 學 (約六十時間)

- 質點ノ力點
- 一 質點ノ運動學
- 二 運動ノ法則
- 三 力ノ場
- 四 エネルギ―ノ法則
- 五 エネルギ―ノ變衰
- 六 簡單ナル運動
- 七 質點ノ平衡

- 四 平面圖形ノ面積
- 五 曲線ノ長サ
- 六 立體ノ體積、曲面ノ面積
- 八 質點系ノ運動
- 剛體ノ力學
- 一 剛體ノ運動學
- 二 剛體ニ作用スル力
- 三 剛體ノ平面運動ノ法則
- 四 簡單ナル運動
- 五 剛體ノ平衡

備考 一 ヲウエクトル法ノ概念ヲ導入スルヲ要ス

二 説明ハ成ルヘク物理的方法ヲ採ルヘシ

文部省訓令第四號(昭和二年三月)

物理教授要目

第二學年 第三學年通計 (約百八十時間)

- 一 序 論
- 自然現象 量ノ測定
- 二 靜力學
- 質點 剛體
- 三 質點ノ動力學
- スケ―ラー量 ヲウエクトル量 運動ノ法則
- 簡單ナル運動 質點系
- 四 剛體ノ動力學
- 並進運動 迴轉運動 振動

- 五 萬有引力 重力
- 六 仕事 エネルギ― 恒存力
- 七 彈性
- フック法則 歪ノ種々ノ場合 彈性ノ餘効簡
- 八 摩 擦
- 九 靜止スル液體
- 一〇 靜止スル氣體
- 一一 表面張力
- 一二 流體ノ運動

- ベルヌーイノ定理 流體ノ内部摩擦 渦動(簡)
- 流體中ニ於ケル物體ノ運動(簡)
- 一三 熱膨脹
- 一四 熱ノ移動
- 一五 熱量測定
- 一六 溫度ニ依ル狀態ノ變化(化)
- 一七 熱力學
- 熱力學ノ第一法則 氣體ノエネルギー 熱力學ノ第二法則 エントロピー(簡)
- 一八 週期運動
- 自由振動 強制振動
- 一九 波 動
- フイゲンスノ原理 波ノ干涉 廻折 定常波
- 二〇 音
- 音波 樂音ノ三要素 音ノ組合セ 發音體ノ

- 振動(簡)
- 二一 光ノ反射
- 二二 光ノ屈折 全反射
- 二三 レンズ
- 薄肉レンズ 厚肉レンズ(簡)
- 二四 光ノ分散
- 二五 光學器械
- 二六 物體ノ色
- 二七 光 波
- 二八 光ノ干涉
- 二九 光ノ廻折
- 三〇 輻射線ノ諸作用
- 三一 光度測定
- 三二 暗黒體ノ溫度輻射
- 三三 スペクトル

- スペクトルノ種類 スペクトル線ノ變位
- 三四 偏 光
- 三五 結晶體ノ光學
- 複屈折 偏光ノ干涉
- 三六 偏光面ノ廻轉
- 三七 磁 氣
- クローンノ法則 磁場 磁氣感應 磁氣ト物質 地磁氣
- 三八 靜電氣
- 帶電ノ方法 靜電感應 クローンノ法則
- 三九 電 場
- 四〇 導 體
- 四一 電氣容量
- 四二 電媒質
- 四三 電池(化)

- 四四 電流ノ輪道
- オームノ法則 キルヒホッフノ規則 ポテンシオメーター ホキートストーン橋
- 四五 電流ノ化學作用(化)
- 四六 電流ノ熱作用
- ジュールノ法則 電流ノエネルギー 熱ノ仕事當量ノ測定
- 四七 熱電流
- 熱電流ノ法則 ベルチエー及タムソン効果
- 四八 電流ノ磁氣作用
- ビオー、サヴァールノ法則 簡單ナル場合ノ磁場 磁場カ電流ニ及ホス作用 電流相互ノ作用
- 四九 電流計
- 五〇 電磁感應

- レンツノ法則 感應動電力 感應係數 自己感應ヲ有スル輪道ノエネルギー
 - 五一 電磁氣量ノ諸單位系
 - 五二 交流 磁場中ニ在ルコイルノ廻轉ニ依ル交流 インピーダンス 交流ノ實効値 各種ノメートル電力輸送(簡)
 - 五三 電氣工學機械
 - 五四 電氣振動 電氣振動 電磁波 電磁光論 針金ニ於ケル電磁定常波 無線電信(簡) 無線電話(簡)
 - 五五 真空放電
 - 五六 X線 X線ノ性質 結晶體ノ原子排列 X線スペクトル 原子番號
 - 五七 放射能 α, β, γ 放射線 放射性元素ノ變成ト其系統
 - 五八 氣體中ニ於ケル電氣傳導 氣體ノイオン 飽和電流 電子 熱電子 光電子
 - 五九 物質構造 質量スペクトル 同位元素 原子ノ構造 スペクトルノ系列輝線 ゼーマン及スタルク効果(簡) 原子ノ崩壊 量子論ノ概要
 - 六〇 相對性 特殊相對性理論ノ概要
- 注意 (簡)ヲ附シタル事項ハ成ルヘク簡單ニ教授スヘキモノトス (化)ヲ附記シタル事項及左記ノ事項ハ主トシ

化學ニ於テ教授スヘキモノトス

液體ノ滲散 滲透 スペクトル分析 光

備考 一 本要目ハ教授ノ順序ニ排列セシモノニアラス

二 中學校ニ於テ學習セシ知識ヲ有効ニ利用シテ授業時間ノ節約ヲ計ルヘシ

三 化學ト物理學ト互ニ交渉アル事項ハ兩者ノ要目ヲ參照スヘシ

四 教授ニ當リ物理學ノ應用ニ關スル知識ヲ與フルニ注意スヘシ

化學 電氣分解

- 實 驗 第三學年約三十回 毎回二時間 實驗者ノ注意スヘキ事項 器械ノ取扱 實驗ノ仕方 誤差 數ノ計算 計算尺
- 一 物體ノ大サノ測定 長サ 幅 厚サ 面積 球面半徑
- 二 天秤使用法
- 三 彈性率、剛性率ノ測定
- 四 比重ノ測定 固體 液體
- 五 表面張力ノ測定 センマイ秤 毛細管
- 六 液體ノ粘性係數ノ測定
- 七 振子ニ依ル重力ノ測定
- 八 寒暖計
- 九 定點ノ決定
- 一〇 熱膨脹係數ノ測定

- 一 比熱
- 二 大氣ノ壓力ノ測定
- 三 濕度ノ測定
- 四 クントノ實驗
- 五 音又ノ振動數ノ測定
- 六 光度ノ測定
- 七 レンズノ焦點距離ノ測定
- 八 望遠鏡、顯微鏡ノ倍率ノ測定
- 九 分光計
- 一〇 光ノ波長ノ測定
- 一一 砂糖計
- 一二 鐵ノ磁氣測定
- 一三 磁氣ノ強サ 殘留磁氣 耐久磁石ノ強サ
- 一四 地磁氣ノ測定
- 一五 放電法ニ依ル電氣容量ノ測定
- 一六 電流計ノ恒數ノ測定
- 一七 アンペアメートル ガルバノメートル
- 一八 電氣抵抗ノ測定
- 一九 固體 液體
- 二〇 ホテンシオメートル法ニ依ル電池ノ動電力ノ測定
- 二一 熱電對
- 二二 ジュール熱ニ依ル熱ノ仕事當量ノ測定
- 二三 交流ニ關スル實驗

備考 一 實驗ハ教室備付ノ器械及實驗進行ノ程度ヲ考ヘ適宜取捨シテ之ヲ授クヘシ

化學教授要目

第二學年第三學年通計約百八十時間

- 總論 (約四十五時間)
- 一 緒論
- 二 元素 化合物
- 三 化學量論ニ關スル諸定律
- 四 原子說 分子說
- 五 元素ノ週期律
- 六 原子構造概說
- 七 氣態
 - 氣體ノ定律 狀態方程式 分子量ノ決定 氣體分子運動說
- 八 液態
- 九 固態
 - 一〇 狀態ノ變化
 - 一一 混合氣體
 - 一二 稀薄溶液
 - 一三 滲透壓及關聯事項
 - 一四 化學反應速度 化學平衡
 - 一五 可逆及不可逆反應 質量作用ノ定律 化學反應速度 接觸作用 化學平衡
 - 一六 電解質ノ水溶液

- 電離説 フアラデーノ定律 電解傳導 電離ノ平衡(中和 加水解離 溶解積等)
- 一五 多成分系ノ多相平衡
 - 氣相ト液相(ヘンリーノ定律 分溜等)氣相ト固相(熱離 風解等)液相ト液相(相互溶解 分配ノ定律等)液相ト固相 溶解 共融等) 其ノ他
- 一六 膠質
 - 濁散 透析 ソル及ゲル 吸着
- 一七 熱化學
 - 實熱量 熱化學方程式(ヘッスノ定律 生成熱 反應熱等)
- 一八 電氣化學
 - 電離溶解 單極電位差 可逆及不可逆電池 蓄電池 濃淡電池 電解

- 一九 光化學
 - 光化學反應 發光現象 スペクトル分析 無機化學(約六十時間)
- 一 水素及其ノ化合物
- 二 ハロゲン族元素及其ノ化合物
- 三 酸素族元素及其ノ化合物
- 四 窒素族元素及其ノ化合物
- 五 炭素、珪素及其ノ化合物
- 六 硼素及其ノ化合物
- 七 金屬元素總論
- 八 アルカリ金屬及其ノ化合物 アムモニウム化合物
- 九 銅族元素及其ノ化合物
- 一〇 マグネシウム、アルカリ土金屬及其ノ化合物
- 一一 亜鉛族元素及其ノ化合物

- 一二 アルミニウム及其ノ化合物
- 一三 稀土類元素概説
- 一四 錫、鉛及其ノ化合物
- 一五 蒼鉛及其ノ化合物
- 一六 クロム族元素及其ノ化合物
- 一七 マンガン及其ノ化合物
- 一八 鐵族元素及其ノ化合物
- 一九 白金族元素及其ノ化合物
- 二〇 錯化合物概説
- 二一 稀有金屬概説
- 二二 稀有氣體概説
- 二三 放射性元素概説

- 二 有機化合物ノ分離、精製、分析
- 三 化學式 構造式
 - 鎖式化合物
- 四 脂肪屬炭化水素
 - 飽和炭化水素 不飽和炭化水素 石油
- 五 炭化水素ノハロゲン置換體
- 六 飽和一價アルコール
- 七 エーテル 無機酸ノエステル
- 八 種々ノ元素ノアルキル化合物
 - アミン フォスフィン カコヂル グリニア
- 九 アルデヒド ケトン
- 一〇 飽和一カルボン酸
 - エステル 鹽化物 無水物 アミド ニトリ

- ル等
- 一二 不飽和アルコホル及不飽和酸
- 一三 多價アルコホル
- グリコル、グリセリン、脂肪、リポイド等
- 一四 多カルボン酸
- 一五 ハロゲン酸、オキジ酸、ケト酸
- 一六 立體化學
- 一七 單糖類、多糖類、配糖體
- 一八 シアン化合物及炭酸ノ誘導體
- 環式化合物
- 一九 芳香屬炭化水素、コールタール
- 二〇 ハロゲン置換體
- 二一 ニトロ、アミノ、アゾ及ジアゾ化合物
- 二二 スルフオン酸等
- 二三 フェノール、多價フェノール、キノン

- 二四 アルデヒド、ケトン
- 二五 カルボン酸、オキシカルボン酸
- 二六 染料
- 二七 ナフタレン、アントラセン、アリザリン等
- 二八 ヒドロ芳香屬化合物
- テルペン、樟腦、ゴム等
- 二九 複素環式化合物
- ピリヂン、ピロン、フラン、チオフェン、ピロル等
- 三〇 キノリン、イソキノリン等
- 三一 インドル、ベンゾピロン等
- 三二 尿酸、カフェイン等
- 三三 アルカロイド
- 三四 アミノ酸、ポリペプチド、蛋白質
- 三五 生物體中ニアル他ノ化合物
- 葉綠素、酵素、ビタミン等

備考

- 一 此ノ要目ハ化學ノ教授上準據スヘキ主ナル教材ヲ擧ケタルモノナリ
- 二 教授ニ當リテ教材ノ排列ハ必スシモ本要目ノ順序ニ從フヲ要セス又總論中ノ事項ハ無機化學、有機化學中ニ適宜安排シテ授クルヲ妨ケス
- 三 教授ニ當リ製造工業、自然現象ノ化學的説明等化學ノ應用ニ關スル知識ヲ與フルニ注意スヘシ
- 四 化學ト物理學トノ兩方ニ密接ノ關係アル事項ハ重複ヲ避ケヘシ

實驗

第三學年約三十回 毎回二時間

- 一 實驗臺ノ整理、洗滌ノ組立 (一回)
- 二 簡單ナル無機化學實驗、普通ノ金屬ノ反應、普通ノ酸ノ反應 (十二回)
- 三 定性分析 (十二回)
- 四 容量分析 (三回)
- 五 簡單ナル有機化學實驗 (二回)

備考

- 一 授業ニ當リテハ必スシモ本要目ノ順序ニ從フヲ要セス又無機化學實驗、有機化學實驗等ヲ分析實驗中ニ適宜安排シテ課スルヲ妨ケス
- 二 實驗ニ際シ器具機械類ノ正當ナル使用法ヲ會得セシムルニ注意スヘシ

三 分析事項ヲ課スルニ當リテハ反應ノ本質ヲ理解セシメ以テ機械的ニ操作スルノミナル弊ニ陥ラサラシムルコトヲ期スヘシ

文部省訓令第四號(昭和三年) (昭和十二年一月七號、同)

三 月) (十四年六月十八號改正)

心理及論理科教授要目

心理教授要目

教授方針

心理ニアリテハ具體的人間行動ノ即事的考察ニ基ク主要事項ノ知見ヲ與ヘ精神現象ノ發現變化ニ關スル事理ヲ解明スルト共ニ汎ク文化ニ關スル科學的探求ノ態度方法ヲ會得セシメ延イテ心的事象ガ歴史の風土的ニ規定セラル、所以ヲ明ニシ特ニ我が國土ト文物トニ於テ國民的精神生活ノ淵源スルトコロヲ理解セシメ以テ國民的自覺ニ資シ進ンデ日本文化ノ創造發展ニ寄與スル素地ヲ育成スルニ力ムベシ

教授事項

第二學年 (約六十時間)

- 一 心理學ノ意義、發達、分科及研究法
- 二 精神發達

- (一) 發達ノ諸方面—生物、個人、社會、文化
- (二) 發達一般

三人ト環境

- (一) 自己、他人、環境
- (二) 環境トシテノ自然ト社會

四 行動ト意識

- (一) 行動ノ分化、其ノ生理的基礎
- (二) 本能的行動ト意識的行動
- (三) 意識、體驗ノ諸相
- (四) 注意、構へ

五 感情

- (一) 快、不快
- (二) 情緒
- (三) 情操
- (四) 感情ト身體的變化

六 知覺 (其ノ一)

- (一) 空間、時間、運動等

(二) 知覺ノ成立、要因

- 七 知覺 (其ノ二)
- (一) 視覺的經驗、聽覺的經驗等
- (二) 感覺的經驗ニ關スル法則

八 記憶

- (一) 表象
- (二) 再生、再認ト聯合
- (三) 記憶ノ變容

九 想像ト思考

- (一) 想像
- (二) 概念、判斷、推理、言語
- (三) 課題解決ノ過程

十 意志ト動作

- (一) 意志體驗
- (二) 意志動作ノ過程

- (三) 自制
- 十一 學習ト作業
 - (一) 習得
 - (二) 學習ノ諸事實
 - (三) 作業ノ經過
- 十二 智能
 - (一) 智能
 - (二) 智能ノ差異
- 十三 人格

- (一) 人格、個性
- (二) 性格、類型
- 十四 集團心ト國民性
 - (一) 集團ノ諸形態—群衆、家族、國家等
 - (二) 國民性、民族性
- 十五 心理學ノ應用
 - 教育、産業、醫事、刑事、軍事等
- 十六 國民文化ト心理學

教授上ノ心得及注意

- 一 教授ニ當リテハ實生活ト心理學トノ緊密ナル關聯ニ留意シ單ニ知識ノ注入ニ終ルコトナク實生活ノ中ニ問題ヲ捉ヘテ事理ヲ明確ニ把握セシムルニ力ムベシ
- 二 教材ニツキテハ心理學近時ノ進歩ニ鑑ミ常ニ國外竝ニ本邦ノ新研究ニ留意スルト共ニナルベク東洋殊ニ日本文化ニ關スル資料ニ之ヲ仰ギテ教授效果ノ大ナランコトヲ期スベシ
- 三 隨時實驗ヲ課スルト共ニ實生活モ亦觀察場、實驗場ナル所以ニ留意シテ實驗精神ノ確立觀察眼ノ養成ニ力ムベシ

成ニカムベシ

- 四 青年期特有ノ情意生活ニ留意シテ適宜之ニ論及シ生徒ノ純情ト眞理探求ノ熱意トヲ十分ニ理解シテ之ヲ啓發誘掖ニ力ムルト共ニ其ノ不安動搖等ニ對シテハ懇切ナル指導ヲ與フルコトヲ要ス理論ノ追求ニ急ナルノアマリ或ハ唯物論的或ハ觀念論的抽象論ニ囚ハル、青年期ノ思想傾向ヲ戒メ事實ノ世界ト價值ノ世界トノ相表裏シテ離ル、コトナキ具體的的人生ノ事理ヲ把握セシムルニ力ムベシ
- 五 心理學ハ諸學ノ基礎ニ觸ル、問題ヲ多分ニ有スルモノナルヲ以テ常ニ他學科特ニ哲學概説、修身、論理、歴史、法制及經濟、數學及自然科學科等ト緊密ニ聯絡シテ取扱フヲ要ス
- 六 理科ニアリテハ論理及學問研究ノ精神ニ論及スルヲ要ス
- 六 教授内容ハ常ニ他學科トノ全體の統一ヲ失フコトナキヲ肝要トス隨ヒテ學科内容ノ決定ハ必ず慎重協議シテ之ヲナスベク又學年ノ途中ニ於テモ隨時打合ヲ怠ラサルヲ要ス苟モ相互ノ關係ヲ無視シ各科個々分立ノ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス
- 尙教科書ノ選定ニツキテハ前同様ノ趣旨ニヨリ嚴密ニ注意シ統一の立場ヨリ之ヲ決定スヘシ
- 七 教授事項ハ教授方針ノ徹底ヲ重視スヘク隨ヒテ各項目ニツキテハ適宜分合増減ヲ行ヒ且順序ノ變更ヲナスヲ妨ケサルモ全體的趣旨ニ戻ラサルヲ期スヘシ

論理教授要目

教授方針

論理ニアリテハ論理的思考ノ成立ト形式トヲ示スト共ニ之カ學的思想ニ於ケル現實的構造ヲ明ニシ特ニ學問研究ノ方法ト其ノ嚴密性トヲ理解セシムヘクカクテ思想ヲ其ノ根據ノ自覺ニ基キ組織ト統一アル體系ヲ示シムル素地ヲ與ヘ論理的反省ハ人間カ自己ノ本質ヲ實現シ發展セシメントスル現實活動タル所以ヲ會得セシムヘシ

教授事項

第三學年 (約六十時間)

- 一 論理思想ノ歷史的發達
- 二 論理的思考ノ本質
- 三 思考ノ基本原理
- 四 概念論
- 五 判斷論
- 六 推理論
- 七 誤謬論
- 八 科學ノ體系

- (一) 形式的科學ト實質的科學
- (二) 自然科學ト精神科學
- 九 自然科學ノ歷史的發達ト其ノ方法
- 十 精神科學ノ歷史的發達ト其ノ方法
- 十一 學問論一般
- (一) 學問ノ科學性
- (二) 學問ノ現實性

教授上ノ心得及注意

- 一 過去ノ固定セル論理形式ノ注入ニ終ルコトナク論理ヲ不斷ニ成長シ發展シツ、アル思考ノ學トシテ授クルコト肝要ナリ
- 二 煩瑣又ハ難解ナル學說ノ紹介及羅列ヲ避ケ論理的思考力ヲ獲得セシムルニ力メ學問研究及文化一般ニ於ケル論理ノ意義ヲ了解セシムルコト肝要ナリ
- 三 教授事項二「論理的思考ノ本質」ニ於テハ言語ト論理トノ聯關ニモ留意シ思想ト民族性トノ關係ニ説キ及フヘシ
- 四 教授事項四「概念論」、五「判斷論」、六「推理論」ニ於テハ簡單明瞭ヲ旨トシ論理的思考ノ具體的展開ニ留意スヘシ
- 尙同上事項ニ關聯シテ數學的論理ニ關説スルモ可ナルヘシ
- 五 教授事項八「科學ノ體系」ニ於テハ諸科學ヲ其ノ一般の聯關ニ於テ把握セシムヘシ
- 六 教授事項十「精神科學ノ歷史的發達ト其ノ方法」ニ於テハ特ニ歷史學ノ方法ノ特質ヲ重視シ全體ト一體トノ聯關ヲ明ニスヘシ
- 七 教授事項十一「學問論一般」ニ於テハ日本ノ歷史的傳統ニ於ケル直觀ノ論理性ヲモ明ニシソノ反省的側面ニ於テ論理ヲ容ル、モノナルコトヲ示スヘシ

- 八 他學科特ニ哲學概説、修身、心理、數學及自然科學科等トノ聯絡ヲ保チソレ等ト重複スルモノハ協議ノ上適當ニ取捨分合シ常ニ全體の統一ヲ圖リテ綜合的立場ヨリ教授スヘク殊ニ教授事項八「科學ノ體系」(一)「自然科學ト精神科學」ト哲學概説教授要目三「哲學ノ諸問題」(一)「科學ノ問題」(ロ)「自然科學ト精神科學」トノ關係ニツキテハ格別ノ考慮ヲ拂フヘシ
 - 九 教授内容ハ常ニ他學科トノ全體の統一ヲ失フコトナキヲ肝要トス隨ヒテ學科内容ノ決定ハ必ス慎重協議シテ之ヲナスヘク又學年ノ途中ニ於テモ隨時打合ヲ怠ラサルヲ要ス苟モ相互ノ關係ヲ無視シ各科個々分立ノ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス
 - 尙教科書ノ選定ニツキテハ前同様ノ趣旨ニヨリ嚴密ニ注意シ統一の立場ヨリ之ヲ決定スヘシ
 - 十 教授事項ハ教授方針ノ徹底ヲ重視スヘク隨ヒテ各項目ニツキテハ適宜分合増減ヲ行ヒ且順序ノ變更ヲナスヲ妨ケサルモ全體の趣旨ニ戻ラサルヲ期スヘシ
- 備考
- 文科ノ心理及論理ノ教授ハ時宜ニ依リ其ノ學年ノ轉換ヲ爲スモ之ヲ妨ケス

文部省訓令第一號(昭和四年一月十六日)

植物學教授要目

教授ノ目的

植物ニ關スル知識ヲ授ケ應用ヲ示シ兼ネテ觀察ヲ精確ナラシムルヲ要旨トシ實驗ニヨツテ其ノ知識ヲ一層確實ナラシムルモノトス

植物學講義要目

(約六十時間)

- 一 緒論 (約一時間)
- 自然界、生物界、生物ノ特徴、動植物ノ區別、生物學、植物學及其ノ分科、植物學ト人生
- 二 形態 (約十四時間)
- (一) 外部形態 (約三時間)
- 植物體、莖、葉、芽、^{シュート}葉條、根及其等ノ異形、花、果實、種子、發芽、相同、相似
- (二) 内部形態 (約十一時間)
- (1) 細胞。原形體(細胞質、核、^{プロトプラスト}プラスチッド)、細胞内容物、細胞膜、細胞分裂、核分裂(約四時間)
- (2) 組織。成長點及分裂組織、組織ノ分化及其ノ種類、細胞間連絡、管束、組織系(表皮、皮膚、中心柱) 莖、葉、及根ノ構造、通氣系及器械的組織、第二期肥大成長、樹皮、材ノ構造 (約七時間)
- 三 生理 (約十六時間)
- (1) 營養。養料、吸收、水液通路、根壓、排水、發散、炭素同化作用、葉綠粒ノ色素、窒素同化、同化物ノ轉用、酵素、植物ノ生産物、特殊營養法 (約八時間)

- (2) 活 ベトリフ 力 ストッフ 代 フ 謝 エタゼム。呼吸、分子内呼吸、醱酵、腐敗、發熱、發光附物質ノ循環、(約三時間)
 - (3) 成長。成長ノ條件、發育ノ週期、生殖器官ノ形成、壽命 (約三時間)
 - (4) 運動。乾濕運動、趨性・屈性・及傾性運動 (約一時間)
 - (5) 病 害。 (約一時間)
- 四 生 態 (約六時間)
- 生活形 (水生、苔生、草本、木本、乾生、ライト光 ライザイト寄生 ライザイト生)、環境、群落、群落ノ種類及分布、繁殖體ノ散布、群落ノ成立ト更新、「フロラ」ノ分布、日本植物分布
- 五 生殖及遺傳 (約十二時間)
- (一) 生 殖 (約五時間)
- 無性生殖、有性生殖、配偶子、受粉、受精、重複受精、サイゴト接合體、減數分裂、ガメト配偶體、メカロ造胞體、世代交替、單性生殖
- (二) 遺 傳 (約七時間)
- 遺傳形質、彷徨變異、生物測定法、純系、メンデルイズム、リンケージ連鎖現象、性ニ關スル遺傳、突然變異、品種改良、遺傳ト進化ノ關係
- 六 分 類 (約十一時間)
- (一) 總 論 (約一時間)

- (1) 分類法ノ大要、綱、目、科、屬、種、變種、品種、學名命名法
 - (2) 分類學ト自然系統
- (二) 各 論 (約十時間)
- (1) バクテリア類附純粹培養、藍藻類
 - (2) 粘菌類、鞭毛類
 - (3) 渦鞭毛類、珪藻類附プランクトン
 - (4) 接合藻類、綠藻類、車軸藻類、褐藻類、紅藻類
 - (5) 藻菌類、眞菌類、地衣類
 - (6) 蘚苔植物
 - (7) 羊齒植物
 - (8) 顯花植物 (裸子植物、被子植物、單子葉植物、雙子葉植物)
 - (9) 概 括
- 植物學講義及實驗要目 (第三學年約六十時間)
- 一 顯微鏡使用法及「プレパレート」製作法 (約三時間)
 - 二 植物採集法及腊葉製作法 (約一時間)

三分 類 (約二十八時間)

左ノ項目ニ就キ適宜選擇スヘシ

バクテリア類、藍藻類、粘菌類、鞭毛類、渦鞭毛類、珪藻類、接合藻類、綠藻類、車軸藻類、褐藻類、紅藻類、藻菌類、真菌類、地衣類、蘚苔植物、羊齒植物、顯花植物

四 細胞及組織 (約二十四時間)

細胞、細胞ノ内容物、原形質運動、原形質分離組織ノ種類、組織系・莖葉、及根ノ構造、第二期肥大成長ニヨル組織

供覧、分裂組織、細胞分裂、減數分裂、性染色體

五 變異統計、メンデル分離法則ニ關スル實驗結果供覧 (約四時間)

備考

- 一 本要目ハ授業上準據スヘキ教材ヲ擧ケタルモノニシテ其ノ排列ハ適宜之ヲ變更スルモ妨ケ無シ殊ニ實驗ニ於テハ教材ノ季節關係、事項ノ難易、其ノ他ノ事情ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ
- 二 本要目ニ掲ケクル各項ヲ授クルニ當リテハ成ルヘク應用ニ關スル事項ヲ附說シ又ハ製品ヲ示ス様留意スヘシ
- 三 生物一般ニ關スル事項ニシテ進化論等ニ關スルモノハ動物學科ノ授業ト重複ヲ避クルタメ本要目ニ於テハ之ヲ省略セリ

- 四 生物學ニ關スル實驗ハ設備等ノ關係上生徒各自ニ行ハシムル事困難ナルヲ以テ講義及實驗ノ際成ルヘク之ヲ供覧セシムヘシ
- 五 成ルヘク機會ヲ利用シテ植物ノ採集及生態的觀察ヲ行ハシムヘシ

動物教授要目

教授ノ目的

動物ニ關スル知識ヲ授ケ應用ヲ示シ兼ネテ觀察ヲ精確ナラシムルヲ要旨トシ實驗ニヨリテ其ノ知識ヲ一層確實ナラシムルモノトス

動物學講義要目 (授業時數一箇年約六十時間)

- 一 動物學ノ範圍 (約一時間)
- 二 構造 (約四時間)
細胞、組織、器官、器官系
- 三 體制 (約二時間)
原型、相同、相似、個體、群體・分業
- 四 發生 (約十時間)

生殖法(有性、無性、單爲、幼生生殖)、世代ノ交番、卵生ト胎生、雌雄ノ別、成熟現象、受精、卵割、胚葉形成、器官形成、畸形

五分 類 (約十六時間)

種ノ概念、分類系統、命名法

門及重要ナル綱

原生動物、海綿動物、腔腸動物、扁形動物(渦蟲類、吸蟲類、纖蟲類)、紐形動物、圓形動物、毛類動物、輪形動物、環形動物(多毛類、貧毛類、蛭類)、前肛動物、棘皮動物(うみゆり類、ひとで類、くもひとで類、うに類、なまこ類)、軟體動物(斧足類、掘足類、腹足類、頭足類)、節足動物(甲殼類、蜘蛛類、多足類、昆蟲類)、原索動物、脊椎動物(魚類、兩棲類、爬蟲類、鳥類、哺乳類)

六生 理 (約十二時間)

運動、發音、發光、發電、體溫、循環、免疫、內分泌、呼吸、榮養及榮養素、排泄、新陳代謝、生殖成長、老衰、死、再生、移植、神經系ノ機能、趨向性、本能、智能

七生 態 (約三時間)

環境ト適應、生活方法ノ種類、分布

八遺 傳 (約四時間)

遺傳ノ事例及法則、性ノ決定、優生學

九進 化 (約七時間)

變異、進化ノ例證、人類ノ由來、重ナル進化學說

十生 命 (約一時間)

生命ノ起源、生命ニ關スル學說

動物學講義及實驗要目

理科第三學年 (授業時數一箇年約六十時間)

解剖實習

一 脊椎動物(例、かへる)、附脊椎動物比較解剖學大要講述及供覽、節足動物(例、ばつた)、軟體動物(例、からすがひ)、環形動物(例、ミムズ)

二 プレパレート製作法

三 鏡檢實習又ハ供覽

アミイバ、ザウリムシ、ヒドラ、ヂストマ等

四 生理實習供覽

神經及筋肉生理、油化酵素作用等

五 生態觀察及採集

學校所在地ノ狀況ニ應シ原野、山林、湖沼又ハ海濱等ニ到リ適宜之ヲ課ス
備考

- 一 本要目ノ事項ニ就キテハ必要ニ應シテ其ノ順序ヲ變更スルモ妨ケス
- 二 植物教授要目ト重複スル事項ハ動物學的事例ヲ以テ補足スルニ止ムルモ妨ケナシ
- 三 孳生保健、傳染病並寄生蟲病ノ豫防等ノ概念ハ之ニ關聯セル事項ヲ教授スル際ニ成ルヘク講述スヘシ

鑛物及地質教授要目

(約六十時間)

- (一) 鑛物學ニ關スル項目
 - 一 序 論
 - ハ 凝集力
 - 硬度、劈開、打像、壓像、蝕像
 - ニ 反 射
 - ホ 重屈折
 - 偏光及偏光ニヨル、一軸性ト二軸性、消光、干涉色、干涉圈、旋光
- 二 鑛物ノ外形及内部構造
- 三 鑛物物理學
 - イ 等方體ト異方體
 - ロ 密度

- ハ 熱電氣、壓電氣、磁氣
- 四 鑛物化學
 - イ 化學成分ト結晶形トノ關係
 - ロ 化學分析ニ依ル鑛物鑑定法
 - ハ 鑛物生成ノ化學
 - ニ 自然界ニ於ケル鑛物ノ化學的變化
 - 五 鑛物ノ分類及鑑定
 - 六 鑛物ノ利用
- 注意
 - 鑛物ノ分類及鑑定ニハ適當ノ表ヲ用フルヲ可トス、鑛物ノ產地特ニ我國ノ產地ハ此ノ際ニ習得セシムルヲ可トス
- (二) 地質學ニ關スル項目
 - 一 序 論
 - 二 地球ノ生成
 - 三 地球ノ現今ノ狀態(氣圈、水圈、岩石圈、重圈、元素ノ賦存狀態) 重圈ニ關スル學說、「アイソスタシー」
 - 四 地殼ノ構造
 - イ 火成岩ノ成因(岩素及其ノ分化)、特性、產狀及種類
 - ロ 水成岩ノ成因、特性、產狀及種類(附風成岩)
 - ハ 變成岩ノ成因、特性及種類
 - ニ 鑛床ノ生成
 - 五 內因的地質作用
 - 內因的地殼變動ノ原因ト結果、造陸作用(緩漫ナル土地ノ上昇ト下降)、造山作用(皺曲、斷層、地塊運動)
 - 火山現象、地震現象
 - 六 外因的地質作用
 - 外因的地質作用ノ原因ト結果、大氣、雨水、

流水、地下水、水河、湖沼及海岸ノ地質的作
用

生物ノ地質的作用

七 地史學概論

化石、地質時代ト地質系統、前カンブリア時
代、古生代、中生代及新生代ノ地史、古生物

備考

ノ概括

八 日本地體構造ノ概要

九 地質學ノ應用

注意

事情ノ許ス限リ野外實習並實驗ヲ課シ併セテ
地圖ノ讀方、地形ノ觀察法等ヲモ習得セシム

一 本要目ハ鑛物及地質ノ教授上準據スヘキ主ナル教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ教材ノ排列ハ必スシモ
之ニ據ルヲ要セス

二 本科ニ於テハ成ルヘク實際生活ニ應用シ得ヘキ知識ヲ授クルコトニ留意スヘシ

文部省訓令第四號 (昭和六年
二月七日)

外國語教授要目

教授方針

外國語ノ教授ハ高等學校規程第七條ノ趣旨ニ基キ外國語ヲ正確ニ了解シ且之ニ依リテ思想感情ヲ表現スルノ

能力ヲ養成シ以テ學術ノ研究ニ資スルト共ニ海外諸國ノ文化、國情、國民性等ヲ正シク理解セシメ併セテ健
全ナル思想、趣味、情操ヲ涵養スルコトニ努ムヘキモノトス

教授事項

發音、綴字、書方、讀方、譯解、話方、聽方、作文、書取、文法

各事項ハ成ルヘク互ニ聯關セシメ以テ教授ノ效果ヲ舉クルヤウ努ムヘシ

英語教授要目

第一外國語

文科

第一學年 (約二百七十時間)

第二學年 (約二百四十時間)

第三學年 (約二百四十時間)

理科

第一學年 (約二百四十時間)

第二學年 (約百八十時間)

第三學年 (約百八十時間)

發音 強勢、抑揚及語句ノ聯結ニ注意シ譯解、話方等ノ教授ニ際シ常ニ正確ナル發音ニ習熟セシムヘシ
綴字(書方ヲ含ム) 譯解、作文、書取等ノ際適宜之ヲ教授スヘシ又綴字、發音ト聯關シテ稍組織的ナル知識ヲ
與フルコトヲ得ヘシ

讀方 譯解、話方等ノ教授ト共ニ練習セシムルコトヲ得ヘク語句ノ發音、文章ノ抑揚ニ注意セシムルハ勿論讀
ムト同時ニ理解シ又聽者ヲシテ理解セシメ得ルヤウ習熟セシムヘシ

譯解 英語ノ學習ヲ單ナル機械的記憶及表面的理解ニ止メス英語ノ特性、國語ト英語トノ語法、文脈ノ差異等
ヲ會得セシメ文章ニ含マレタル意味、感情等ヲ直接感受セシムルヤウ語學的訓練ヲ行フヘシ又豫習ヲ督勵シ

良書ヲ指定シテ自學研鑽ノ風ヲ起シ作品ヲ通シテ海外諸國ノ文化、國情ヲ理解セシムルト共ニ眞摯ナル思想、
感情ニ觸レシメ進ンテ文學ノ鑑賞及批評ノ能力ヲ養フコトニ努ムヘシ

話方(聽方ヲ含ム) 日常ノ挨拶、應對ヲ初メ口頭ニヨル思想、感情ノ發表ニ慣レシムルト共ニ英語ヲ聽取スル
コトニ習熟セシメ以テ英語ニヨル談話、講義等ヲ容易ニ了解シ得ルヤウ指導スヘシ

作文 既習ノ語句及文法上ノ知識ヲ自由ニ活用シテ自ラ英文ヲ構成スルコトニ慣レシメ以テ自己ノ思想、感情
ヲ適切ニ表現スルノ能力ヲ養フヘシ

書取 隨時之ヲ課シ正確且敏速ニ書取ルコトヲ練習セシムヘシ

文法 特ニ時間ヲ設ケテ組織的ニ教授スルコトヲ得ルモ譯解、作文等ヲ教授スル際常ニ具體的説明ヲ加ヘ既ニ
習得セル文法上ノ知識ヲ整理シ且増進スルヤウ指導スヘシ

第二外國語

文科

第一學年 (約九十時間)

第二學年 (約九十時間)

第三學年 (約九十時間)

理科

第一學年 (約九十時間)

第二學年 (約九十時間)

第三學年 (約九十時間)

各教授事項ハ第一外國語ノ場合ニ準ス

入學前獨語或ハ佛語ヲ履修セル者ニ對シテハ初步ヨリ教授シ第一外國語ノ知識ヲ利用シテ急速ノ進歩ヲ計ル
ヘシ

備考

- 一 第一外國語、第二外國語ヲ通シテ教授事項ハ成ルヘク互ニ聯關セシメテ教授スルモノトス例ヘハ發
音、綴字、讀方、書取、文法ノ如キハ譯解、話方、作文等ニ隨伴セシメ之ヲ授クルコトヲ得ヘシ
- 一 譯解ノ教材ハ同種類ノモノニ偏セサルヤウ教授者間ニ協調ヲ保チ文章ノ難易ト内容ノ適否トヲ慎重

ニ考慮シテ成ルヘク近代ノ標準的作品ヨリ選フヘシ
 譯解以外ノ教授事項ニ關シテモ適當ナル教材ヲ選ヒテ使用スルコトヲ妨ケス
 一 前記教授事項ノ外ニ適宜暗誦ヲ課スルコトアルヘシ

獨語教授要目

第一外國語

文科

第一學年 (約三百三十時間)

發音、綴字、書方、讀方、譯解、話方(聽方ヲ含ム)、作文、書取、文法

發音、綴字、讀方ハ初期ニ於テ正確ナル基礎ヲ授ケ書方ハ獨逸文字ノ書體ヲ一通リ練習セシムヘシ

譯解、話方、作文、文法ニ就テハ平易ヲ旨トシ成ルヘク相互ノ連絡ニ注意シ必スシモ重複スルヲ妨ケス時々

暗誦、書取ヲ課シテ語彙ヲ豊ニシ語法ニ熟セシムルヲ可トス

第二學年 (約三百時間)

讀方、譯解、話方(聽方ヲ含ム)、作文、書取、文法

讀方、譯解等ノ教材ノ選擇ニ際シテハ成ルヘク各種ノ文體及内容ニ接セシムルヤウ注意スヘシ

文法ニ就テハ適宜ニ補遺練習ヲ行フヘシ

第三學年 (約三百時間)

讀方、譯解、話方(聽方ヲ含ム)、作文、書取、文法

教材ハ論文、小説、戯曲、詩歌、史傳、紀行、時文等ヨリ適宜ニ選擇シテ獨逸文化ノ理解ニ資センコトニ努

ムルモノトス

理科

第一學年 (約三百時間)

概ネ文科第一學年ニ準ス

第二學年 (約二百七十時間)

概ネ文科第二學年ニ準ス

第三學年 (約二百七十時間)

概ネ文科第三學年ニ準ス

教材ノ選擇ニ際シテハ必スシモ文科ト差別スルヲ要セスト雖多少自然科学的要素ヲ加味スルヲ妨ケス

第二外國語

文科、理科

第一學年 (約百二十時間)

主トシテ發音、綴字、書方、讀方、譯解、文法ヲ課シ傍ラ話方(聽方ヲ含ム)、作文、書取ニ及フ

第二學年 (約百二十時間)

主トシテ讀方、譯解ヲ課シ話方(聽方ヲ含ム)、作文、書取ニ及フ
教材ハ成ルヘク各種ノ文體及内容ニ接セシムルヤウ選擇スルモノトス

第三學年 (約百二十時間)

主トシテ讀方、譯解ヲ課シ話方(聽方ヲ含ム)、作文、書取ニ及フ

教材ハ事情ヲ考慮シテ適宜ニ之ヲ選擇ス必スシモ文科、理科ノ差別ヲ設ケスト雖多少ノ斟酌ヲナスヲ妨ケス
備考

- 一 入學前獨逸語ヲ履修セル者ニ就テハ相當ノ期間特別ノ課程ニ依ル授業ヲナスコトアルヘシ
- 一 成ルベク早く辭書ノ使用ニ慣レシメ自習スルノ習慣ヲ養フコトニ努ムヘシ
- 一 作文ハ國文獨譯、他國語ヨリノ獨譯、自由作文等ヲ適宜ニ課スルコトヲ得
- 一 第二外國語ニ就テハ時間數其ノ他ノ事情ニ鑑ミ主トシテ讀書力ノ養成ニ努ムヘシ

佛語教授要目 (略)

文部省訓令第十五號 (昭和八年五月八日)

體操教授要目

體操ノ教材

一、體操

下肢ノ運動

屈膝舉股
脚各方振
舉踵屈膝
脚各方伸

上肢ノ運動

臂各方舉
臂各方伸
臂各方振
臂迴旋
臂側開(振)

頭ノ運動

頭各方屈
頭側轉

體ノ運動

頭迴旋
胸後屈
體側轉
體各方屈
體各方倒
臂立各方臥

懸垂運動

懸垂
脚懸
逆上
蹴上
振上
懸上
尙下リ方トシテ振跳、跳越、中拔
下側下等ノ方法ヲ用フ

行進
各種行進
跳躍運動
各方跳
跳越
臂立跳越
倒立及轉廻運動
倒立
臂立轉廻
呼吸運動
臂各方舉
二、競技
走技、跳技及投技
走技
短距離走
中距離走

長距離走
障礙走
跳走
立幅跳
走幅跳
立高跳
走高跳
三段跳
投技
砲丸投
圓盤投
槍投
球技
ドッチボール
ハンドボール

備考

- 一 本要目ニ掲ケタル教材ハ概ネ主要ナルモノヲ總括的ニ示セルヲ以テ適宜選擇補充スルヲ妨ケス
- 二 適當ナル時期ニ於テ體育ノ理論(救急處置、スポーツマツサージ等ヲモ含ム)ヲ授クルヲ可トス
- 三 水泳、スキー、スケート等ハ土地ノ狀況ニ應シ適宜之ヲ課スルコトヲ得
- 四 劍道柔道及弓道ニ關シテハ一定ノ方式ヲ示ササルモ適當ナル方法ヲ定メテ之ヲ授クヘシ
- 五 教練ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ據ル

教授上ノ注意

- 一 教授ハ常ニ其ノ目的ニ副ハムコトヲ期シ徒ニ技術ノ末ニ走ルカ如キコトナク克ク生徒ノ精神ノ涵養ト身體ノ修練ニ力ムルヲ要ス
- 二 教授ニ當リテハ體育運動ノ必要ヲ自覺セシメ其ノ趣味ヲ涵養シ且不斷ニ之ヲ實行スルノ習慣ヲ助長スルニ留意スルヲ要ス
- 三 教材ハ各特徴ヲ有シ互ニ相倚リテ精神及身體ノ陶冶ヲ完ウスルモノナルヲ以テ相互ノ連繫ヲ緊密ナラシメ適切ナル指導ヲナスヲ要ス
- 四 教材ノ配當ハ別ニ之ヲ示ササルモ學年ニ應シ適切ナル配當ヲ爲シ指導ノ適正ヲ期スルヲ要ス

- 五 教授並ニ教材ノ選擇ハ土地ノ狀況、季節、天候及設備等ヲ顧慮シ之ヲ適切ナラシメ且運動ノ實施ニ當リテハ危害ヲ招カサル様特ニ監督ニ留意スヘシ
- 六 體操ノ教材ハ概ネ總括的ニ示セルヲ以テ之ニ含ム單一ナル教材ヲ行ハシムルト共ニ必要ニ應ジ適宜結合シテ行ハシムルヲ可トス
- 七 競技ノ教授ニ當リテハ競技規則ヲ嚴守シ特ニ全生徒ニ均等ナル機會ヲ與フルコトニ留意スヘシ
- 八 競技ノ教授ニ當リテハ特ニ其ノ基本的練習ヲ適切ニシ又其ノ準備運動及整理運動ヲ課スルニ留意スルヲ要ス

文部省訓令第七號(昭和十二年三月)

修身科教授要目

教授方針

修身科ニ於テハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ體シテ我カ國體ノ本義ヲ闡明シ以テ皇國ノ道ニ徹セシメ其ノ實踐躬行ニ力メシムヘシ

- 一 人間ハ歷史的・國家的存在ニシテ國民トシテ初メテ完キモノナルコトヲ會得セシメ批判・反省・自覺ヲ通シテ個人生活ト國家生活トヲ統一スヘキ所以ヲ明ニシ道德カ必ス歷史的・國家的ナル具體生活ノ實踐ナルコトヲ知ラシメ率先躬行以テ國民ノ指導者トシテノ修養ニ力メシムヘシ

二 歷史的及風土的ニ我カ國民生活ノ特質及様相ヲ究メ以テ皇國ノ道ノ由來ト本質トヲ明ニシ我カ國民道德ハ國體ニ淵源シ之ニ歸一スヘキモノナル所以ヲ知ラシメ而モ之ヲ抽象的知識タラシメス行的ニ體認セシムヘシ

三 東西ノ道德及其ノ學說ヲ歷史ニ即シテ檢討シ夫々ノ特質ヲ理解セシムルト共ニ皇國ノ道カ古今東西ニ通スル所以ヲ明ニシ以テ東西文化ヲ統一發展セシムヘキ日本國民ノ使命ヲ自覺セシムヘシ

教授事項

第一學年(約三十時間)

一 高等學校生活

(一) 人トハ何ソヤ

自然的存在・歷史的存在・社會的存在・國民的存在

(二) 國民ノ指導者ト其ノ資格

信念・氣魄・識見・德行・情操・健康

(三) 道ノ修養・學問ノ精神

(四) 校風

二 青年ト修養

(一) 師弟ノ道・學友ノ道

(二) 分・禮・恩・敬・愛・信

(三) 良心・正義・規律・奉仕

(四) 自由・責任・自律・自治

(五) 人生ニ對スル疑問・理想ト現實

(六) 心身ノ鍛鍊・勤勞・體験

(七) 公共團體・公衆道德・國際親善・國際協力

三家及國

(一) 家

- (一) 家ノ歴史の性格
- (二) 國
- (三) 國
- (四) 國ト歴史の運命・自然の環境・文化的創造
- 第二學年 (約三十時間)
- 一 國民・國民性・國民精神
- 二 我カ國民生活ノ歴史の・風土の特殊性
- 三 西洋道德・東洋道德及我カ國民道德
- 四 我カ國民道德ノ淵源トシテノ國體
- 五 皇國ノ道ノ本質ト其ノ發展性
- 六 皇國ノ道ノ具現
 - (一) 大御心ノ奉戴・祭政一致・清明心・荒魂・和
- 第三學年 (約三十時間)
- 一 人間生活ト道德
 - 道德ト宗教・藝術・法律・政治經濟等トノ關係
- 二 道德ノ原理ノ學トシテノ倫理學
- 三 西洋倫理思想史ト其ノ批判
- 四 東洋倫理思想史ト其ノ批判
- 五 日本倫理思想ト其ノ批判
- 六 現代文化ノ批判・我カ國現代文化ノ批判
- 七 皇國ノ道ノ普遍性
- 魂・產靈
- (二) 尊皇・忠孝一致
- (三) 仁愛正義ノ實現トシテノ皇國
- (四) 慈悲・報恩
- (五) 武道・藝道・士道
- (六) 包容・同化
- 七 皇國ノ道ノ體現

八 東西文化ノ統一發展ト我カ國民ノ使命
教授上ノ心得及注意

九 皇運ノ扶翼・皇威ノ宣揚

- 一 教授ニ當リテハ具體的ナル人間生活ハ常ニ歷史的・國家的基礎ノ上ニ立ツモノナルコトニ留意スヘシ個
人生活ヲ基礎的地盤ト考ヘ國家生活ヲハ第二次のナルモノトシテ取扱ヒ人間・人格・良心・正義・自由・行
爲等ヲ常ニ個人主義的立場ニ於テ考察シ個人生活ノ抽象的理論ト歷史的・國家的事象トヲ二元のニ對立
分離セシムルノ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス
- 二 修身科固有ノ任務ト地位トヲ自覺シ他ノ諸學科トノ聯關ヲ密接ナラシメ全體の統一アル立場ニ立チテ其
ノ教育的意義ヲ徹底セシムルニ力ムヘシ
- 三 徒ニ専門的知識ノ體系的教授ニ陥ルコトナキヲ要ス生徒ノ生活竝ニ心理ノ實際ニ即シ又常ニ現實ノ國家
活動・社會ノ動向ニ留意シ特ニ生徒ノ青年期ニ於ケル精神的動搖及人生觀・世界觀・國家觀上ノ疑問ト
惱ミトニツキテハ徹底的ニシテ懇切ナル指導ヲ與フルニ力ムヘシ
- 四 生徒ノ眞理探求ノ熱情ト理論的要求トハ十分ニ理解シテ之ヲ充スニ力ムヘシト雖モ單ナル抽象的理論ニ
終始シテ概念ノ遊戲ニ陥ルコトナキヲ要ス
- 五 道德生活ニ關スル疑問ハ生徒ヲシテ自ラ之ヲ究明セントスル精神及態度ヲ養ハシムルト共ニ努メテ其ノ
疑問ヲ捉ヘテ自覺ヲ喚起シ理論ト實踐トノ統一ニ導キ以テ確乎タル信念ト實踐ノ力トヲ育成スルニ力ム
ヘシ

- 六 生徒ヲシテ常ニ國民的使命ヲ自覺セシムルヲ肝要トスト雖モ皇國ノ道ノ眞義ヲ誤リテ徒ニ偏狹固陋ナル國家觀ニ陥リ排外ノ獨善ノ傾向ニ流ルルコトナカラシムヘシ
- 七 單ニ教室内ノ教授ノミヲ以テ終レリトセス學校生活ヲ通シテ生徒ヲ實行ニ導キ人格的感化ヲ及ホスニ力ムヘシ
- 八 教授内容ハ常ニ他學科トノ全體の統一ヲ失フコトナキヲ肝要トス隨ヒテ學科内容ノ決定ハ必ス慎重協議シテ之ヲナスヘク又學年ノ途中ニ於テモ隨時打合ヲ怠ラザルヲ要ス苟モ相互ノ關係ヲ無視シ各科個々分立ノ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス
- 尙教科書ノ選定ニツキテハ前同様ノ趣旨ニヨリ嚴密ニ注意シ統一の立場ヨリ之ヲ決定スヘシ
- 九 教授事項ハ教授方針ノ徹底ヲ重視スヘク隨ヒテ各項目ニツキテハ適宜分合増減ヲ行ヒ且順序ノ變更ヲナスヲ妨ケサルモ全體の趣旨ニ戻ラサルヲ期スヘシ

文部省訓令第七號 (昭和十二年三月)

國語及漢文科教授要目

教授方針

國語及漢文科ニ於テハ國語ハ我カ國民性ノ具現タル所以ヲ明ニシテ其ノ特質ヲ會得セシムルト共ニ更ニ其ノ理解・應用ノ能力ヲ得シメ又漢文ハ訓讀ト解釋トノ力ヲ養ヒ東洋ノ思想及道德ノ本義ヲ明ニシ其ノ我カ國民ノ思想・生活ニ攝取醇化セラレタル跡ヲ示シ國語漢文相待チテ國民精神ノ涵養ニ資スルヲ要ス

- 一 國語ニアリテハ國語・國文ノ構造及特質ヲ明ニシ其ノ正確自由ナル使用ト思想及體驗ノ明晰ナル表現トニ習熟セシメ語感ノ體認ニヨリ國語ト國民ノ思想感情トノ靈妙ナル交互作用ヲ會得セシメテ國語ニ對スル愛護ノ念ヲ養フト共ニ國文ノ解釋・鑑賞・批評ヲ通シテ精神生活ノ理解ヲ深カラシメ眞善美ニ對スル情操ヲ陶冶シ又國語・國文ノ史的發展ノ大要ヲ授ケテ我カ國民ノ思想及生活ノ由來ト發展トヲ了解セシメ以テ國民精神ノ涵養ニ資シ進ンテ世界ニ於ケル我カ國文化ノ地位ヲ知ラシムヘシ
- 二 漢文ニアリテハ訓讀ト解釋ヲ授ケ漢字ノ用法・漢文ノ構造ヲ會得セシメ特ニ支那ノ典籍ニ於テハ思想・道德及文學ヲ民族の特性竝ニ歴史ニ即シテ理解セシムルト共ニ之カ批判ニ留意シ其ノ我カ國民ノ精神生活ニ於ケル意義ヲ把握セシメ以テ國民精神ノ涵養ニ資スヘシ

國語

教授事項

一 講 讀

- 上古文 (例へハ古事記・日本書記・祝詞・宣命・萬葉集等)
- 中古文 (例へハ源氏物語・枕草子・大鏡・土佐日記・古今和歌集等)
- 近古文 (例へハ平家物語・太平記・方丈記・增鏡・徒然草・神皇正統記・高僧ノ法語類・新古和歌集・新葉和歌集・謠曲・狂言等)
- 近世文 (例へハ國學者・漢學者ノ文章・和歌・俳諧・奧ノ細道・鶉衣・日本永代藏・雨月物語・淨瑠璃等)

二 文 法

國語學一般

語法ノ歴史

現代語法

三 作 文

口 語 文

文 語 文

四 文 學 史

上古ヨリ現代ニ至ル

教授時數及配當

文 科

第一學年 每週三時間 講讀二時間 文 法一時間

第二學年 每週三時間 講讀二時間 文學史一時間

第三學年 每週三時間 講讀二時間 文學史一時間

作文ハ即題及宿題トシ四週間ニ一題ノ割合ニテ之ヲ課シ必要ナル時間ハ國語及漢文ノ時間内ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

理 科

第一學年 每週二時間 講讀二時間

第二學年 每週二時間 講讀二時間(但シ内一時間ハ漢文ニ充ツルコトヲ得)

作文ハ文科ニ準スヘシ

教授上ノ心得及注意

一 講讀ニアリテハ輪講等ノ方法ニヨリ解釋ヲ指導シテ語句文章ヲ正確ニ理解セシメ作家ノ個人的特徴、時代の特色ヲ明ニシ特ニ我カ國民的思想感情及國民生活トノ相關的關係ヲ會得セシメ又文化ニ對スル感受性ヲ鋭敏ニシ思想ヲ豐富ナラシムルニ力ムヘシ

二 講讀ニアリテハ思想内容ニ對スル正確ナル理解ヲ得シムルト共ニ適切ナル批判ヲ與ヘ生徒ノ内生活ニ聯關セシムルニ力ムヘシ

三 講讀ニ於ケル文學的教材ニツキテハ解釋ト共ニ鑑賞ノ指導ヲナシ以テ國民的情操ノ涵養ニ力ムヘシ

四 講讀ノ教材ハ純文學ノミヲ採ラス國民思想ヲ内容トスル論說文ノ類ヲモ用ヒ教授者ノ嗜好ニ偏スルコトヲ避クヘシ

五 講讀ノ教材ノ選定ニツキテハ種々ナル著書ヨリ抽出セル短文ノ羅列ニ止リ作家ノ思想精神ヲ深く把握スルヲ得サルノ弊ニ陷レルモノヲ避クヘシ

六 講讀ニ於ケル教材ノ配當ハ必スシモ時代ノ區分ニ從フヲ要セスト雖モ各學年ヲ通シテ其ノ思想精神ヲ統

- 一 的ニ理解セシメ國民性ノ特色ヲ明ナラシムルニ力ムヘシ
- 七 文法ニアリテハ既得ノ知識ヲ整理發展セシムルト共ニ其ノ基礎的知識トシテ國語學一般ヲ授ケ且講讀ト相待チテ各時代語法ノ特徴ヲ知ラシメ又現代語法ノ適用ニ習熟セシムヘシ
- 八 作文ニアリテハ生徒ノ思想及體験ノ自由ニシテ統一アル表現ノ力ヲ養ハシムルヲ主トシ又之ニヨリテ思想及體験ヲ明確ニ把握スルヲ得シメ且思想ノ發展、體験ノ擴充ニ資セシムヘシ
- 九 作文ニアリテハ現代口語體ヲ主トシ併セテ現代慣行ノ各種文體ヲモ修練セシメ語句ノ推敲、構想ノ整齊ニ注意セシメ文話トシテ修辭學特ニ構想論ノ一般ヲ授クヘシ又現代ノ名文ニツキテ講讀スル事アルヘシ
- 十 文學史ニアリテハ書誌的・解說的・傳記的事項ハ適當ナル教科書等ニヨリ簡略ニ之ヲ授ケ講義ハ專ラ國文學ノ史的發展ノ敘述、其ノ本質ノ闡明、主要ナル作家・作品ノ精神史の意義ノ把握、國民思潮ノ大勢ノ理解等ニ力ヲ用フヘシ
- 十一 理科ニ於ケル講讀ハ主トシテ歷代ノ國文ヲ選集セル讀本類ヲ教科書トシ國民精神・國民生活ニ關スル適切ナル教材ニツキテ國民精神史・國民生活史ノ立場ヨリ十分ニ敷衍説述スヘシ
- 十二 理科ニ於ケル作文ハ文科ニ準スヘシト雖モナルヘク理科生徒ニ適切ナル様注意スヘシ
- 十三 國語ノ教授ハ之ヲ講讀・文法・作文・文學史ニ分ツト雖モ教授方針ノ趣旨ヲ根本精神トシテ常ニ是等ノ全體の統一ヲ圖ルニ力メ苟モ分科分離シテ相互ノ聯關ヲ失フコトナキ様注意スヘシ
- 十四 教授内容ハ常ニ他學科トノ全體の統一ヲ失フコトナキヲ肝要トス隨ヒテ學科内容ノ決定ハ必ス慎重協議

シテ之ヲナスヘク又學年ノ途中ニ於テモ隨時打合ヲ怠ラサルヲ要ス苟モ相互ノ關係ヲ無視シ各科個々分立ノ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス

尙教科書ノ選定ニツキテハ前同様ノ趣旨ニヨリ嚴密ニ注意シ統一の立場ヨリ之ヲ決定スヘシ

十五 教授事項ハ教授方針ノ徹底ヲ重視スヘク隨ヒテ各項目ニツキテハ適宜分合増減ヲ行ヒ且順序ノ變更ヲナスヲ妨ケサルモ全體の趣旨ニ戻ラサルヲ期スヘシ

漢文

教授事項

講讀

文科

- 第一學年 大日本史・中朝事實・弘道館記述義等
孝經・四書・小學・貞觀政要・史記・資治通鑑等
和漢歷代名家ノ詩文
- 第二學年 四書・荀子・韓非子・帝範・臣軌・近思錄・傳習錄等
和漢歷代名家ノ詩文
- 第三學年 四書・春秋左氏傳・老子・莊子・墨子・孫子等
和漢歷代名家ノ詩文

理科

- 第一學年 文科第一學年ニ準ス
- 第二學年 文科第二學年ニ準ス

備考

- 一 時文・小説等ノ類ハ隨時之ヲ附課スルコトヲ得
- 二 思想史・文學史及文法ニ關スル事項ハ教材ニツキテ隨時之ヲ教授スルモノトス

教授時間數及配當

文科

- 第一學年 每週三時間 講讀
- 第二學年 每週二時間 講讀
- 第三學年 每週二時間 講讀

理科

- 第一學年 每週二時間 講讀
- 第二學年 每週一時間ヲ配當スルコトヲ得

教授上ノ心得及注意

- 一 講讀ニアリテハ徒ニ文字・語句ノ穿鑿ニ流レス思想内容ノ把握ヲ重視シ社會及時代ニ即シテ理解セシメ

且適切ナル批判ヲ與フルニ力ムヘシ特ニ支那ノ思想・道德及文學ノ我カ國民精神ニ攝取醇化セラレタルモノハ其ノ跡ヲ明ニスルニ力ムヘシ

- 二 教材ノ選擇ニツキテハ我カ國民ノ精神生活ニ關スル意義深キモノヲ中心トシ教授者ノ嗜好ニ偏スルコトナキヲ要ス

- 三 教材ノ選定ニツキテハ種々ナル著書ヨリ抽出セル短文ノ羅列ニ止リ作家ノ思想精神ヲ深ク把握スルヲ得サルノ弊ニ陥レルモノヲ避クヘシ

- 四 國語ニ關スル教授上ノ心得及注意ヲ參照シ相互ニ聯絡補益シテ陶冶的意義ヲ發揮スルニ遺漏ナキヲ期スヘシ

- 五 他學科特ニ修身・哲學概説・歷史科等トノ内容的聯絡ニ留意シ漢文教授ノ意義ヲ徹底セシムルニ力ムヘシ

- 六 教授内容ハ常ニ他學科トノ全體の統一ヲ失フコトナキヲ肝要トス隨ヒテ學科内容ノ決定ハ必ス慎重協議シテ之ヲナスヘク又學年ノ途中ニ於テモ隨時打合ヲ怠ラサルヲ要ス苟モ相互ノ關係ヲ無視シ各科個々分立ノ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス

- 七 尚教科書ノ選定ニツキテハ前同様ノ趣旨ニヨリ嚴密ニ注意シ統一的立場ヨリ之ヲ決定スヘシ

- 七 教授事項ハ教授方針ノ徹底ヲ重視スヘテ隨ヒテ各項目ニツキテハ適宜分合増減ヲ行ヒ且順序ノ變更ヲナスヲ妨ケサルモ全體的趣旨ニ戻ラサルヲ期スヘシ

文部省訓令第七號 (昭和十二年三月)

歷史科教授要目

教授方針

歴史科ニ於テハ古今ノ主要ナル歴史の事象ヨリシテ邦國盛衰ノ因由、文化ノ進展ヲ會得セシメ國民的教養ニ資シ國民ノ活動ハ歴史ヲ貫ク國民精神ニヨリ制約セラルモノナルコトヲ明ニシ我カ國ノ歴史ト諸外國ノ歴史トノ異ナル所以ヲ示シ世界ニ於ケル我カ國ノ使命ヲ知ラシメ國民的信念ヲ鞏固ナラシムルヲ要ス

一、東洋史・西洋史ニアリテハ東洋及西洋諸國ノ歴史の變遷ヲ知ラシメ其ノ精神の特性ヲ捉ヘ以テ各國ノ歴史ヲ明ニシ歴史ニ對スル廣キ理解力ヲ養ハシムルト共ニ我カ國ノ精神ヲ基トシテ之ヲ批判シ常ニ國史ト密接ナル聯關ヲ保持スヘシ

一、國史ニアリテハ國初ヨリ現時ニ至ル各時代ノ歴史の變遷ヲ知ラシメ特ニ我カ國民精神・道德及生活ノ國體ニ淵源スルモノナルコトヲ示シ以テ國家ノ發展ノ跡ヲ明ニスルニ力ムヘシ

教授事項

東洋史

第一學年 (約九十時間)

緒論

東洋史ノ領域及意義

古代

一、支那文化ノ黎明

(一) 支那民族ノ始原ト其ノ文化

(二) 古帝王ノ傳説

二、夏・殷・周三代ト其ノ文化

(一) 夏・殷ノ文化

(二) 殷周革命ト封建制度

(三) 春秋・戰國時代ノ推移

(四) 周代ノ制度ト思想

(イ) 周代ノ制度

(ロ) 孔子ト儒家

(ハ) 諸子百家

(五) 周代ノ社會ト經濟

三、秦漢ノ統一ト其ノ文化

(一) 始皇帝ノ統一ト其ノ政治

(二) 秦漢ノ交代

(三) 漢代政治ノ推移

(イ) 武帝ノ政治ト支那國家組織ノ整備

(ロ) 後漢ノ政治

(四) 漢代ノアジヤ

(イ) 南越・匈奴・西域・滿洲及朝鮮

(ロ) 日本

(五) 漢代ノ文化ト社會

(イ) 學術・思想・藝術

(ロ) 制度・經濟及社會

四、古代印度ノ文化

(一) 古代印度民族ト其ノ文化

(二) 佛教ノ興隆

(イ) 佛陀ト其ノ教説

(ロ) アシヨカ王

(ハ) カニシカ王

中世

一、三國・兩晉・南北朝時代ト其ノ文化

(一) 三國ノ鼎立

(二) 晉ノ統一ト其ノ南遷

(三) 南北朝ノ對立

(四) 滿洲及朝鮮ノ形勢

(五) 社會ト文化

- (イ) 世 族
 - (ロ) 老莊・儒學・文學・藝術
 - (ハ) 佛教ノ興隆
 - (ニ) 道教ノ成立
 - (六) 支那及朝鮮ト日本トノ關係
- 二、隋唐ノ統一
- (一) 隋ノ南北統一ト其ノ政治
 - (二) 唐ノ盛衰
 - (三) 隋唐時代ノアジヤ
 - (イ) 塞外・西域・チベット・ペルシヤ・アラビヤ
 - 印度・印度支那等
 - (ロ) 滿鮮ノ形勢ト新羅ノ半島統一
 - (ハ) 渤海
 - (ニ) 日本
 - (四) 唐代ノ制度
 - (イ) 官制及法律

- (ロ) 田制及稅制
 - (ハ) 兵 制
 - (三) 學制及科學
 - (五) 唐代ノ文化ト社會
 - (イ) 儒學・文學其ノ他
 - (ロ) 宗 教
 - (ハ) 藝 術
 - (ニ) 社會及經濟
 - (ホ) 外國貿易
 - (六) 唐代ノ制度・文化ト日本トノ關係
- 三、五代・宋ノ政局ト外國關係及文化
- (一) 藩鎮ノ跋扈ト五代ノ推移
 - (二) 北宋ノ政治ト朋黨
 - (三) 宋・遼・高麗相互ノ關係
 - (四) 宋ト西夏・安南
 - (五) 金ト南宋

- (六) 宋代ノ文化ト社會及經濟
 - (イ) 儒學・文學其ノ他
 - (ロ) 宗 教
 - (ハ) 藝 術
 - (ニ) 社會及經濟生活ノ發達
 - (ホ) 外國貿易
 - (ハ) 宋ノ文化ト日本
- 四、元ノ盛衰
- (一) 蒙古ノ興起ト成吉思汗
 - (二) 蒙古ノ歐亞經路ト元ノ統一
 - (イ) 西夏・金ノ滅亡
 - (ロ) 拔都ノ西征ト諸汗國
 - (ハ) 世祖ノ經路ト宋ノ滅亡
 - (ニ) 日元關係
 - (三) 元代ノ文化ト社會
 - (イ) 制 度

- (ロ) 學問・藝術
 - (ハ) 宗 教
 - (ニ) 社會及經濟
 - (ホ) 東西交通
- 五、明ノ政治ト文化
- (一) 元明ノ交代
 - (二) 明ノ盛衰ト對外關係
 - (イ) 永樂帝ト明ノ政局
 - (ロ) チムール王朝
 - (ハ) 李氏朝鮮ノ興起
 - (三) 「北虜南倭」
 - (ホ) 萬曆朝鮮ノ役ト其ノ影響
 - (三) 明代ノ文化ト社會
 - (イ) 儒學・文學・藝術
 - (ロ) 社會及經濟
 - (ハ) 明代ノ文化ト日本

近世

- 一、歐人ノ東漸トキリスト教ノ傳來
- 二、清ノ興隆ト其ノ文化
 - (一) 滿洲族ノ勃興ト朝鮮
 - (二) 明清ノ交代
 - (三) 清ノ統一
 - (四) 清代盛時ノ制度ト文運
 - (イ) 康熙・雍正・乾隆帝
 - (ロ) 官制・兵制・學制及科學
 - (ハ) 儒學・文學及其ノ他ノ學問ノ發達
 - (ニ) 藝 術
 - (ホ) 歐洲文化ノ採用
- 三 太平天國ノ亂ト清ノ衰運
 - (一) 白蓮教ノ亂
 - (二) 太平天國ノ亂其ノ他
- 四、アジアニ於ケル歐米勢力ノ侵迫

- (一) 印度ニ於ケル英佛ノ抗爭トイギリスノ印度經營
 - (イ) ムガール帝國
 - (ロ) 英佛ノ抗爭
 - (ハ) イギリスノ印度經營
 - (ニ) 英佛ト清トノ交渉
 - (イ) 阿片戰爭ト南京條約
 - (ロ) 英佛聯合軍ト天津・北京條約
 - (三) ロシヤノアジア經路
 - (イ) 東亞經路
 - (ロ) 中亞經路
 - (四) フランスノ印度支那經路ト清佛戰役
 - (五) アメリカ合衆國ノ太平洋進出ト支那貿易
- 五、日清戰役ヲ中心トスル東亞ノ狀勢
 - (一) 東亞ニ於ケル英露ノ角逐
 - (二) 朝鮮問題ト日清戰役

- (三) 義和團ノ亂ト其ノ影響
- 六、日露戰役ヲ中心トスル東亞ノ政局
 - (一) 日露戰役前後ノ形勢
 - (二) 日韓併合
 - (三) 日露戰役ノアジア諸民族ニ及ボセル影響
- 七、清ノ滅亡
 - (一) 近代革命思想ノ發展ト革命黨
 - (二) 清ノ滅亡
- 八、中華民國ノ成立
 - (一) 民國成立ノ特殊性
 - (二) 民國政局ノ推移
 - (三) 支那轉近ノ社會・經濟上ノ變動
 - (四) 民國ノ對外關係
 - (イ) 外蒙古問題トロシヤトノ關係
 - (ロ) チベット問題トイギリストノ關係
 - (ハ) アメリカ合衆國トノ關係

- (三) 日支交渉ノ諸問題
- 九、滿洲國ノ建設
- 十、アジアノ現狀
 - (一) 支那
 - (二) 印度
 - (三) イラン・アフガニスタン
 - (四) 佛領印度支那・蘭領印度
 - (五) シヤム
 - (六) フイリツピン
- 東洋史通觀
 - 一、東洋文化ノ特色
 - 二、東洋諸國ト我カ國トノ國體及民族性ノ相違
 - 三、東洋史上ヨリ觀タル我カ國民ノ使命
- 西洋史

第二學年 (約九十時間)

緒論

西洋史上ノ國土及民族

上古

- 一、西南アジア諸國及エジプトノ興亡及其ノ文化
- 二、ギリシヤ民族ト其ノ文化

(一) 都市國家ノ興亡

- (イ) ギリシヤノ地勢ト都市國家
- (ロ) アテネトスパルタ
- (ハ) ペルシヤ戰役 アテネノ興隆
- (ニ) ギリシヤノ諸國爭覇及衰微

(二) アレクサンドル大王 ヘレニズムノ世界

(三) ギリシヤ文化

(イ) ギリシヤ精神

(ロ) ギリシヤ盛期及ヘレニズム時代ノ文化

三、ローマノ盛衰

(一) 共和政時代ノローマ

(イ) 政治組織イタリヤ征服

(ロ) 地中海沿岸ノ征服 政治及社會狀態ノ變動

(二) ローマノ帝政帝國内外ノ情勢

(三) ローマ帝國ノ没落

(イ) 當時ノ社會・經濟狀態

(ロ) 帝國没落ノ諸原因

(四) ローマ文化

(イ) ギリシヤ文化トノ關係

(ロ) ローマ文化ノ特色

(ハ) ローマノ史的使命

四、キリスト教ノ起原・傳播 正教會ノ成立

五、西洋古典文化ノ史的意義

中古

一、ゲルマニヤ民族ノ大移動 上古文化ノ荒廢

二、キリスト教世界ト回教世界

(一) 東ローマ帝國ノ盛衰 ビザンツ文化

(二) サラセンノ勃興 回教及其ノ文化

(三) フランク王國ノ興隆 教會ト國家

(四) チャールルス大帝ノ事業 其ノ帝國ノ分裂

(五) ローマ教會ノ發展 ギリシヤ・ローマ兩教會ノ分立

ノ分立

三、ノルマンノ活躍ト其ノ建設セル諸國 マジヤールノ侵入

四、神聖ローマ帝國ノ成立 俗權ト政權トノ衝突

五、封建制度ノ由來 封建時代ノ社會及經濟

六、十字軍及其ノ影響

(一) 十字軍

(二) 都市ノ勃興 人智ノ開發

(三) 皇帝及法皇ノ勢力失墜

七、近代國家ノ成立

八、蒙古ノ西侵 トルコノ勃興

九、西洋中古文化ノ諸相及史的意義

近古

一、文藝復興

(一) 文藝復興ノ意義

(イ) 人文主義

(ロ) 個我ノ自覺

(ハ) 三大發明

(二) イタリヤニ於ケル文藝復興

(三) 其ノ他諸國ニ於ケル文藝復興

二、地理上ノ發見

(一) 發見ト其ノ動機

(二) 通商植民ノ發展 ポルトガル及イスパニヤノ活躍

三、宗教改革ト其ノ反動

- (一) ドイツ其ノ他ノ宗教改革
- (二) 舊教ノ覺醒
- 四、宗教上及政治上ノ紛争
 - (一) 西歐諸國ニ於ケル紛争 オランダノ獨立
 - (二) 三十年戰役
- 五、近代諸國家ノ發達
 - (一) 近代國家形態ノ發達
 - (二) フランスノ專制政治 外國侵略 イスパニヤ 繼承戰役
 - (三) イングランドノ革命 議會政治
 - (四) ロシヤノ興隆 北方戰役 東方侵略 ポーランド分割
 - (五) プロシヤノ興隆 其ノ軍國主義 オーストリ

第三學年 (約六十時間)

- 一、フランス革命
- 近 世

- ヤ 繼承戰役 七年戰役
- (六) 重商主義ト海上權ノ推移
- (七) 英佛對抗ト殖民地争奪
- 六、アメリカ合衆國ノ獨立
- 七、近古ノ文化
 - (一) 十六・七世紀ノ文化
 - (二) 啓蒙思想
 - 合理主義・個人主義・世界主義・自由主義・舊物打破ノ精神
 - (三) 啓蒙時代ノ政治・經濟・哲學・文藝等
 - (四) 科學ノ進歩
 - (五) 近代西洋文化ニ於ケル啓蒙思想ノ意義
- (一) 原因 推移 思想的意義
- (二) 革命政府ト諸外國

- 二、ナポレオント其ノ時代
 - (一) ナポレオンノ事業
 - (二) 解放戰役 ウイーン會議 神聖同盟
- 三、自由主義及國民主義ノ發展
 - (一) 反動政治ノ盛行 ギリシヤ及ラテンアメリカ諸國ノ獨立 モンロー主義
 - (二) 七月革命 ベルギーノ獨立
 - (三) 二月革命ト其ノ影響
 - (四) フランスノ第二帝政
- 四、産業革命
 - (一) 生産組織ノ變革
 - (二) 世界の通商及交通ノ發達
 - (三) 近世資本主義
- 五、國民的國家ノ建設
 - (一) 自由主義及國民主義ノ結實
 - (二) イタリヤノ統一

- (三) ドイツノ統一
 - (イ) 奥普・獨佛兩戰役 ドイツ帝國ノ建設
 - (ロ) ビスマルクノ内外政策
- 六、列強ノ國內情勢
 - (一) 第三共和政治下ノ フランス
 - (二) 帝政下ノ ロシヤ
 - (三) イギリスノ諸改革
 - (四) アメリカ合衆國ノ發達
 - (イ) 領土ノ擴張
 - (ロ) 南北戰役
 - (ハ) 戰役後ノ發展
- 七、十九世紀ノトルコト列強
 - (一) エジプト事件
 - (二) クリミア戰役
 - (三) 露土戰役 ベルリン會議
- 八、歐洲ノ國際關係

- 獨逸同盟 三國同盟 露佛同盟
- 九、列強ノ世界政策
 - (一) アジヤニ於ケル列國ノ經營
 - (二) アフリカニ於ケル列國ノ經營
 - (三) 太平洋ニ於ケル列國ノ經營
 - (イ) イギリス其ノ他諸國ノ大洋洲拓殖
 - (ロ) 米國ノ太平洋進出
- 十、十九世紀ノ文化
 - (一) 思想ノ地盤トシテノ歐洲社會生活
 - (二) 近代思想及學藝
 - (三) 自然科學的・實證主義的時代
 - (四) 經濟・政治ニ關スル諸說
- 最近世
 - 一、世界大戰前歐洲ノ形勢
 - (一) 三國同盟ト三國協商英獨ノ對抗モロッコ問題
 - (二) バルカンニ於ケル露・獨・埃勢力ノ衝突
 - (三) 伊土戰役 バルカン戰役
- 二、世界大戰
 - (一) 大戰ノ勃發及經過
 - (二) ロシヤノ革命 獨・埃ノ革命
 - (三) パリ講和會議 ヴェルサイユ條約其ノ他
- 三、大戰後ノ世界
 - (一) 大戰直後ノ列國
 - (二) 國際關係ノ變動 國際聯盟
 - (三) 列強ト日本
- 四、最近ノ文化及風潮
 - (一) 大戰ノ史的意義
 - (二) 國際主義 民族主義
 - (三) 社會民主主義 共產主義
 - (四) 政治・經濟・思想上ノ動搖

- (五) 伊・獨・蘇聯邦ニ於ケル政治的文化的變移
- (六) 英・佛・米諸國ノ現勢
- (七) 我カ國トノ關係

- 西洋史通觀
- 一、西洋史上ノ諸精神
- 二、東洋・西洋文化ノ比較
- 三、西洋史上ヨリ觀タル我カ國ノ使命

緒論

二、氏族制度

- 一、史學ノ性質
- 二、國史教育ノ意義
- 三、日本史學史ノ大要
- 四、國史ノ時代區分
- 古代
 - 一、肇國
 - (一) 肇國ノ宏遠
 - (二) 國土及國民
 - (三) 國體ノ淵源
 - (四) 神話・傳説ト其ノ意義

- (一) 皇室中心ノ氏族制度
- (二) 氏族制度ノ沿革
- (三) 氏族制度ト固有文化
- (四) 歸化人 大陸文化ノ影響
- 三、聖德太子ト其ノ時代
 - (一) 政治ノ御理想ト十七條憲法
 - (二) 諸制度ノ制定ト其ノ精神
 - (三) 隨トノ通交ト其ノ史的意義
 - (四) 佛教ノ興隆
 - (五) 飛鳥時代ノ藝術

- 四、大化改新ト其ノ進展
 - (一) 革新ノ機運 社會情勢
 - (二) 國家思想ノ發達 中央集權ノ確立ト新制度
 - (三) 近江朝廷
 - (四) 律令制定ノ沿革
- 五、奈良時代
 - (一) 平城京ノ建設
 - (二) 國運ノ隆昌 國內開發ノ進步 國家的自覺ノ發展
 - (三) 對外關係
 - (四) 天平ノ文化
- 六、平安時代
 - (一) 平安遷都
 - (二) 政治ノ變遷
 - (三) 社會狀態及經濟生活
 - (四) 宗教・文學・藝術

- (五) 文化ノ日本の様相
- (六) 武門ノ勃興
 - 中 世
- 一、鎌倉幕府
 - (一) 武家政治ノ成立ト其ノ意義
 - (二) 幕府ノ構成ト其ノ變遷
 - (三) 貞永式目ト武家社會
 - (四) 元寇 國家意識ノ昂揚
 - (五) 幕府ノ衰亡
 - (六) 宗教文學藝術
 - (七) 武士道
- 二、建武中興
 - (一) 後醍醐天皇ノ御理想
 - (二) 勤王ノ諸臣
 - (三) 吉野朝廷
 - (四) 建武中興ノ意義

- 三、室町幕府
 - (一) 幕府ノ組織ト國內事情
 - (二) 對外關係 國民ノ海外進出
 - (三) 室町時代ノ文化ト其ノ特質
 - (四) 群雄ノ分立ト其ノ民政
 - (五) 皇室ト國民
- 第三學年 (約六十時間)
- 近 世
 - 一、江戸時代ノ政治及社會
 - (一) 幕府ノ組織ト封建制度
 - (二) 社會形態ト其ノ變遷
 - (三) 鎖國ト其ノ影響
 - (四) 學藝ノ勃興
 - (五) 商工業ノ發達ト庶民文化
 - (六) 諸藩ノ治
 - 二、江戸時代ノ學問・思想ト其ノ特質

- (六) 歐人ノ渡來 天主教ノ傳播ト西洋文物
- 四、安土・桃山時代
 - (一) 織田・豐臣二氏ノ事蹟ト其ノ尊王
 - (二) 大名制ノ成立
 - (三) 對外關係ト政策
 - (四) 時代ノ精神ト美術・工藝
- (一) 國體觀念ノ高調
- (二) 儒學ノ諸派ト其ノ日本の發達
- (三) 國學ノ發達ト尊王思想
- (四) 洋學ノ研究ト厚生利用
- 三、幕末ノ世相ト其ノ動向
 - (一) 文化文政時代
 - (二) 内治ノ破綻
 - (三) 海外ノ形勢ト對策
 - (四) 國民ノ覺醒ト尊王攘夷

- (五) 幕政ノ終焉
最近世
 - 一、明治維新ト新政ノ進展
 - (一) 明治維新ノ意義
 - (二) 國是ノ確立
 - (三) 版籍奉還ト廢藩置縣
 - (四) 諸般制度ノ改革
 - (五) 西洋文化ノ移入ト歐化思想
 - (六) 皇室中心思想ト國民の自覺
 - 二、帝國憲法ト教育勅語
 - (一) 帝國憲法・皇室典範制定ノ由來及其ノ精神
 - (二) 教育勅語渙發ト國民精神ノ歸趨
 - 三、國威ノ宣揚
 - (一) 條約改正
 - (二) 日清・日露戰役
 - (三) 戰後ノ國際關係
- 四、經濟生活ノ發展
 - (一) 財政ト其ノ政策
 - (二) 產業ノ發達
 - 五、明治時代ノ學問・文藝
 - 六、明治天皇
 - 七、大正時代
 - (一) 大正時代ノ政治・社會・經濟・思想
 - (二) 世界大戰及戰後ニ於ケル國際關係
 - 八、最近時ニ於ケル世界ノ政治的・經濟的・思想的
情勢
 - 國史通觀
 - 一、國體ノ精華
 - (一) 御聖德
 - (二) 一君萬民
 - (三) 不易ノ國體
 - 二、日本ノ國民性情

三、日本文化發展ノ特性

- (一) 文化ノ連續性
- (二) 文化ノ包容性

教授上ノ心得及注意

- 一 東洋史・西洋史ノ史實竝ニ精神ノ特性ヲ明ニスルト共ニ之ヲ我カ國ノ立場ヨリ批判スルノ用意ヲ怠ラス常ニ國史ヲ中心トシテ相互ニ聯關ヲ保チ國史ノ世界史ニ於ケル意義ヲ明確ニシテ國民ノ使命ヲ自覺セシムルニ力ムヘシ
- 二 努メテ抽象的ニ流ルルコトヲ避ケテ綜合的、具體的ニ教授シ生徒ヲシテ唯物史觀ノ如キ一方的ナル史觀ニ偏セシメサルノ用意ナカルヘカラス而シテ常ニ歷史カ國民精神ノ顯現ナルコトヲ覺ラシメ又現時代カ歷史ノ繼續ナルコトヲ明ニスヘシ
- 三 單ナル史實ノ穿鑿及其ノ羅列的說明ニ陥リ或ハ徒ニ博聞多識ヲ目標トスルコトナキヲ要ス
- 四 國史教授ニ於テハ國史ノ精神ヲ現在ニ生カスコトニヨリ國民トシテノ道ヲ實現シ以テ國運ノ發展ニ貢獻セシメンコトヲ期スヘシ
- 五 教授内容ハ古代ヨリ現代ニ進ムニ從ヒ漸次之ヲ詳細ニシ近世以後及通觀ノ諸項ハ特ニ留意シテ之ヲ授クルヲ要スト雖モ上代ニツキテモ其ノ後世ニ深キ影響ヲ及ホスモノハ之ヲ十分ニ説キ特ニ我カ國ノ精神ニツキテハ之カ明確ナル把握ヲナサシムルニ力ムヘシ

- 四、現代ニ於ケル我カ國家・社會・國民生活ノ有スル歷史的性格
- 五、我カ國體ト國民ノ世界的使命

- 六 最近ノ世界ノ大勢ハ我カ國ヲ中心トシテ之ヲ了解セシムルノ必要アルヲ以テコノ點ニ關シテハ必スシモ東洋史・西洋史・國史ニ於ケル教授事項ニ拘ルコトナク各學校ニ於テ協議ノ上綜合的立場ヨリ適切ナル教授ヲナスニ力ムヘシ
- 七 偉大ナル人物ト其ノ行藏ノ跡ヲ說キテ史上ノ偉人ノ内ニ自己ヲ見出サシメ以テ感激ト修養トニ資セシムルヲ肝要トス
- 八 一時代・一事項ヲ詳說スルニ偏シ爲ニ全體ヲ通觀スルノ餘裕ヲ失ヒ全體ノ脈絡及之ヲ貫ク精神ヲ明ニスルヲ得サルカ如キ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス
- 九 教授内容ハ常ニ他學科トノ全體的統一ヲ失フコトナキヲ肝要トス隨ヒテ學科内容ノ決定ハ必ス慎重協議シテ之ヲナスヘク又學年ノ途中ニ於テモ隨時打合ヲ意ラサルヲ要ス苟モ相互ノ關係ヲ無視シ各科個々分立ノ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス
- 尙教科書ノ選定ニツキテハ前同様ノ趣旨ニヨリ嚴密ニ注意シ統一的立場ヨリ之ヲ決定スヘシ
- 十 教授事項ハ教授方針ノ徹底ヲ重視スヘク隨ヒテ各項目ニツキテハ適宜分合増減ヲ行ヒ且順序ノ變更ヲナスヲ妨ケサルモ全體的趣旨ニ戻ラサルヲ期スヘシ

文部省訓令第七號 (昭和十二年三月)

地理科教授要目

教授方針

地理科ニ於テハ人類ト自然トノ相互關係ヨリ生スル文化現象ヲ地域的ニ考察シ各國カ其ノ國土ニ特有ナル自然ノ影響ヲ受ケ又之ヲ開發・利用シテ夫々固有ノ文化ヲ創造シ發展セシメツツアルノ實情ヲ闡明シ特ニ我カ國土、國勢並ニ其ノ發展ヲ指示シ國民性トノ關係ヲ說述シ以テ國民的自覺ヲ喚起シ國土愛ノ精神ヲ涵養シ進ンテ世界ニ於ケル我カ國ノ地位ヲ理解セシムルニ力ムヘシ

教授事項 (約六十時間)

- 一、地理思想ノ發達
 - (一) 西 洋
 - (二) 東 洋
 - (三) 日 本
- 二、人類ノ居住地トシテノ地表
 - (一) 陸 地
 - (二) 河湖及海洋
 - (三) 氣候及生物
 - (四) 日本ノ國土
- 三、世界ノ住民
 - (一) 人種ト民族・言語及宗教
- (二) 人種及民族ノ分布
 - (三) 日本ノ住民
- 四、人口及聚落
 - (一) 人口ノ分布及密度
 - (二) 人口ノ増減及移動
 - (三) 聚落ノ種類及形態
 - (四) 村落及都市ノ發達
 - (五) 日本ノ人口及聚落
- 五、世界ノ文化
 - (一) 自然地域ト文化地域
 - (二) 東亞文化地域

- (三) 日本文化地域
- 六、交通ノ地理的考察
 - (一) 交通ノ發達・通信
 - (二) 交通ト文化トノ關係
 - (三) 陸上・海上及空中交通
 - (四) 日本ノ交通
 - (五) 世界交通ニ於ケル日本ノ地位
- 七、經濟ノ地理的考察
 - (一) 經濟生活ノ發展
 - (二) 經濟活動ニ於ケル地理的契機
 - (三) 原始生産業
 - (四) 工業
 - (五) 商業
 - (六) 日本ノ資源ト産業及貿易
- 八、國家ノ地理的考察
 - (一) 國家及國民

- (二) 國家ノ形成及存立
- (三) 國境
- (四) 領土及植民地
- (五) 國家ノ發展
- (六) 我カ國家
- 九、現下ノ國際情勢
 - (一) 資源及産業關係
 - (二) 政治的國際關係
 - (三) 國民經濟ト世界經濟及プロツク經濟
 - (四) 人口問題
 - (五) 食料問題
 - (六) 人種及民族問題
 - (七) 國民性問題
 - (八) 國防問題
- 十、世界ニ於ケル我カ國ノ地位
 - (一) 我カ國ノ隣接地域

- (イ) 太平洋
- (ロ) 南洋諸島
- (ハ) 滿洲國・中華民國及蘇聯邦

- (二) 我カ國ノ特殊性
- (三) 列強ノ國勢ト我カ國勢
- (四) 我カ國ノ使命

教授上ノ心得及注意

- 一 地理ハ單ナル知識トシテノミ授クルコトナク之ヲ我カ國民生活ノ一指針タラシムルト共ニ之ニヨリテ國土ニ對スル理解ト愛トヲ深メ且我カ國民ノ自覺ヲ促シテ國家發展ノ動因タラシムルニ力ムヘシ
- 二 單ニ事實ノ羅列的及機械的説明ノミニ止ラス夫々ノ國家及文化ノ地域性ヲ闡明シ生徒ヲシテソレ等ノ成立及發展ノ由リテ來ル所以ヲ明確ニ把握セシムルニ力ムヘシ
- 三 生徒ヲシテ文化ト自然トノ意味ヲ正シク認識シ固有ノ文化ト自然環境トノ關係ヲ理解セシメ以テ機械的唯物論的見解ニ墮セシメサル様留意スヘシ
- 四 事情ノ許ス限り實地指導ヲ行フヲ可トス
- 五 地理思想ノ發達ヲ説クニ當リテハ地圖ノ發達ニ言及シ各項目ニツキテモナルベク各種地圖類ヲ使用シ授業ノ効果ヲ擧グルヲ可トス
- 六 絶エス國際情勢ノ動向ト密接ナル聯關ヲ保チ現在ノ問題ヲ離レタル抽象的知識タラシメサル様注意スヘシ
- 七 教授内容ハ常ニ他學科トノ全體的統一ヲ失フコトナキヲ肝要トス隨ヒテ學科内容ノ決定ハ必ス慎重協議

シテ之ヲナスヘク又學年ノ途中ニ於テモ隨時打合ヲ怠ラサルヲ要ス苟モ相互ノ關係ヲ無視シ各科個々分立ノ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス

尙教科書ノ選定ニツキテハ前同様ノ趣旨ニヨリ嚴密ニ注意シ統一の立場ヨリ之ヲ決定スヘシ

八 教授事項ハ教授方針ノ徹底ヲ重視スヘク隨ヒテ各項目ニツキテハ適宜分合増減ヲ行ヒ且順序ノ變更ヲナスヲ妨ケサルモ全體の趣旨ニ戻ラサルヲ期スヘシ

文部省訓令第七號 (昭和十二年三月)

哲學概說科教授要目

教授方針

哲學概說科ニ於テハ窮極原理ヲ求メントスル精神・態度・方法ヲ會得セシムルト共ニ偉大ナル思想家ノ思索ノ跡ヲ學ハシメテ自ラ思索シ修養スルノ素地ヲ與ヘテ人生觀・世界觀・國家觀ノ問題ニツキ正シキ認識ト批判力トヲ養ハシムルヲ要ス先ツ日本・東洋・西洋ノ諸思想ノ大要ヲ歴史ト現實トノ聯關ヨリ說述シ各種ノ思想ハ夫々ノ國家社會ノ地盤ヨリ發展シ又之ニ歸一スル所以ヲ理解セシメ特ニ我カ國獨自ノ精神・我カ國家存立ノ意義・國民トシテノ道ヲ明ニシ實踐ノ基本ヲ確立スヘシ

教授事項 (約九十時間)

- 一、哲學的精神
 - (一) 人生ト世界 哲學ノ發生
 - (二) 人生觀・世界觀ノ構成
 - (三) 哲學ト宗教及藝術トノ關係

- (四) 哲學ト社會・歴史及文化トノ關係
- 二、哲學思想ノ史的發展
 - (一) 西洋思想ノ發展
 - 古代・中世・近世思想ノ概觀
 - (二) 支那思想ノ發展
 - 古代思想・儒教思想(特ニ宋明ノ儒教)ノ概觀
 - (三) 印度思想ノ發展
 - 佛教思想ノ發展・大乘佛教(支那ニ於ケル發展ヲ含ム)ノ概觀
 - (四) 日本思想ノ發展
 - 古代・中世・近世思想ノ概觀
 - (五) 現代思想ノ發展
 - 現代思想ノ一般の傾向及概觀
 - 三、哲學ノ諸問題
 - 教授上ノ心得及注意

- (一) 科學ノ問題
 - (イ) 認識ニ關スル諸說
 - (ロ) 自然科學ト精神科學
 - (ハ) 科學ト哲學 哲學獨自ノ領域
 - (二) 世界觀ノ問題
 - (イ) 形而上學ノ諸說
 - (ロ) 存在論・實相論・道體論
 - (ハ) 窮極原理
 - (三) 實踐ノ問題
 - (イ) 知ト行
 - (ロ) 社會・歴史ノ問題
 - (ハ) 道德・法律ノ問題
 - (ニ) 宗教ノ問題
 - (ホ) 國家ノ問題
- 四、哲學の原理トシテノ日本固有ノ道

- 一 教授ニ當リテハ徒ニ専門的ナル知識ノ注入ニ陥リテ單ナル博識ノ養成ニ終ルコトナク實人生ト哲學トノ密接ナル聯關ニ注意シ努メテ生徒ノ人生ニ對スル疑問ヲ捉ヘテ其ノ自覺ヲ喚起シ自ラ思索反省スルノ態度ト熱意トヲ育成スルニ力ムヘシ
- 二 教授内容ハ西洋哲學ニ偏スルコトナク我カ國獨自ノ思想ヲ中心トシテ廣ク東西ノ哲學ヲ概説スルヲ要ス殊ニ日本思想ノ發展ヲ講スルニ際シ儒教・佛教ニ關シテハ其ノ日本化セル點ニ留意スヘシ
- 三 教授内容ハ國家社會ノ現實ニ即セル歴史的理解ヲ與フルト共ニ論理的體系のナル認識ヲモ與ヘテ正シキ實踐ニ導クヘキモノタラシメ理論ト實踐トノ統一ニ力ムヘシ
- 四 哲學ハ諸學ノ基礎ニ觸ルルモノナルヲ以テ常ニ他學科特ニ修身・心理及論理・歴史・國語及漢文・法制及經濟・數學及自然科學科等トノ聯絡ヲ保チソレ等ト重複スルモノハ協議ノ上適當ニ取捨分合シ常ニ全體の統一ヲ圖リテ綜合的立場ヨリ陶冶的意義ヲ徹底スルニ力ムヘシ
- 五 生徒ノ思想内容及心理ニ留意シ現代ノ思想的動搖ニ關シ適切ナル指導ヲ與ヘ批判力ヲ養ハシムルコトニ力ムヘシ特ニ左ノ事項ニ注意スルヲ要ス
 - (一) 青年期ニ於テハ哲學思想殊ニ淺薄且危險ナル流行思想ノ感化力甚大ニシテ動モスレハソレ等ニヨリテ一生ヲ支配セラルルニ至ルモノナルコト
 - (二) 生徒ノ人生觀・世界觀・國家觀等ニ關スル憊ミト其ノ窮極原理探求ノ熱意トニ對シテハ十分ニ之ヲ了解シ思想上偉大ナル先人ノ思索ノ跡ト聯關セシメテ適切ナル指導ヲナスノ必要アルコト

- (三) 生徒ハ動モスレハ複雑ナル現實生活ノ問題ヲ單ナル抽象的理論ニ依リテ律セントシ或ハ單ナル主觀的空想ヲ以テ之ニ對セントスルノ弊アルコト
- 六 教授内容ハ常ニ他學科トノ全體的統一ヲ失フコトナキヲ肝要トス隨ヒテ學科内容ノ決定ハ必ス慎重協議シテ之ヲナスヘク又學年ノ途中ニ於テモ隨時打合ヲ怠ラサルヲ要ス苟モ相互ノ關係ヲ無視シ各科個々分立ノ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス
- 尙教科書ノ選定ニツキテハ前同様ノ趣旨ニヨリ嚴密ニ注意シ統一的立場ヨリ之ヲ決定スヘシ
- 七 教授事項ハ教授方針ノ徹底ヲ重視スヘク隨ヒテ各項目ニツキテハ適宜分合増減ヲ行ヒ且順序ノ變更ヲナスヲ妨ケサルモ全體的趣旨ニ戻ラサルヲ期スヘシ

文部省訓令第七號 (昭和十二年三月)

法制及經濟科教授要目

教授方針

法制及經濟科ニ於テハ我カ國民ノ政治生活及經濟生活ノ組織及内容ヲ會得セシメ特ニ我カ國家ノ本質ヲ明ニシ以テ國民生活上必要ナル知識ヲ與フルト共ニ國民的信念ヲ養フニ力ムヘシ

一 法制ニアリテハ我カ國體及國憲ノ本質ヲ闡明シテ肇國ノ根本義及憲法發布ノ聖旨ヲ知ラシメ以テ我カ國統治ノ根本觀念ヲ明確ニシ之ヲ基トシテ法ノ本質ト法學ノ意義トヲ明ニシ特ニ適法ノ精神ノ涵養ニ留意スヘシ

二 經濟ニアリテハ經濟ノ實際ト理論トニツキ國民生活上必須ナル知識ヲ授クルト共ニ國民經濟ノ實際及思想カ歴史ト國情トニ基ク所以ヲ明ニシ且財政・經濟ト國力發展トノ關係ヲ會得セシムヘシ

教授事項
法制

文科 (約六十時間)

一、人間・社會・文化

二、國家

(一) 國家及國民生活

(二) 東洋・西洋ニ於ケル國家學說ノ史的概觀

(三) 近代的國家觀ト我カ國家

三、我カ國家

(一) 我カ國家成立ノ由來

(二) 我カ國體

四、天皇

(一) 天皇統治ノ本義

(二) 皇室及皇族

五、臣民及國土

六、法

(一) 法ノ本質

(二) 法ト社會的規範一般 特ニ法ト道德

(三) 法ト國體

(四) 法ノ體系

七、帝國憲法及皇室典範

(一) 帝國憲法及皇室典範制定ノ由來

(二) 天皇ノ大權

(三) 臣民ノ權利義務

(四) 帝國議會・國務大臣・樞密顧問・裁判所

八、行政法

(一) 官治行政

(二) 自治行政

九、刑事法

(一) 違法行爲一般 特ニ犯罪及刑罰

(二) 刑事訴訟法

十、民事法

理科 (約三十時間)

一、國家

(一) 國家及國民生活

(二) 近代的國家觀ト我カ國家

二、我カ國家

(一) 我カ國家成立ノ由來

(二) 我カ國體

三、天皇

(一) 天皇統治ノ本義

(一) 現代私法ノ沿革並ニ近時ノ傾向

(二) 民法 (家族制度・私有財産制度)

(三) 商法

(四) 民事訴訟法

十一、國際法

十二、法學ノ任務ト遵法ノ精神

(一) 皇室及皇族

四、臣民及國土

五、法

六、帝國憲法及皇室典範

(一) 帝國憲法及皇室典範制定ノ由來

(二) 天皇ノ大權

(三) 臣民ノ權利義務

(四) 帝國議會・國務大臣・樞密顧問・裁判所

- 七、行政法
- 八、犯罪及刑罰
- 九、民法

(一) 民法 (家族制度・私有財産制度)

經濟

文科 (約六十時間)

一、經濟生活

- (一) 國民生活下經濟生活
- (二) 經濟生活ノ史的概観
- (三) 經濟下法下道德

二、國民經濟

- (一) 國民經濟ノ意義及特質
- (二) 生産
- (イ) 生産要素
- (ロ) 生産機構
- (三) 企業

(二) 民事訴訟法

十、國際法

十一、法學ノ任務下遵法ノ精神

(四) 流通

- (イ) 貨幣・價格・物價
- (ロ) 市場・商業・交通
- (ハ) 信用・金融
- (ニ) 景氣變動・恐慌
- (五) 分配
- (イ) 所得下分配
- (ロ) 地代・利子・賃銀・利潤
- (ハ) 保險
- (六) 消費

三、國民經濟政策

經濟政策・社會政策・人口政策・植民政策

四、財政

- (一) 豫算・決算
- (二) 經費・公企業・租稅・公債

五、國民經濟下世界經濟

(一) 世界經濟

理科 (約三十時間)

一、經濟生活

- (一) 國民生活下經濟生活
 - (二) 經濟下法下道德
- 二、國民經濟
- (一) 生産
 - (二) 企業
 - (三) 流通
 - (イ) 貨幣・價格・物價

(二) 我カ國民經濟ノ現状下世界經濟ニ於ケル地位

六、經濟思想

- (一) 近世西洋經濟思想
 - (二) 近世日本經濟思想
 - (三) 西洋經濟思想ノ移入下現代日本經濟思想
- 七、我カ國民經濟ノ特質下國民ノ覺悟

(ロ) 市場・商業・交通

(ハ) 信用・金融

(ニ) 景氣變動・恐慌

(四) 分配

- (イ) 地代・利子・賃銀・利潤
- (ロ) 保險
- (五) 消費
- (六) 國民經濟政策

三、財 政

(一) 豫算・決算

(二) 經費・租稅・公債

四、國民經濟ト世界經濟

教授上ノ心得及注意

五、近世經濟思想

(一) 西洋經濟思想

(二) 日本經濟思想

六、我カ國民經濟ノ特質ト國民ノ覺悟

- 一 國家ニ關シテハ單ナル抽象的・形式的知識ヲノミ授クルコトナク生徒ヲシテヨク我カ國體ヲ理解セシメ以テ現實ナル國家組織ノ眞諦ヲ會得セシムルニ力ムヘシ
- 二 個人ニ即シテノミ法ヲ考フルノ弊ニ陥ルコトナク法ノ國家的・歷史的特質ヲ十分ニ會得セシメ法ノ背後ニ動キテ其ノ基礎トナリ原動力トナレル基本精神ヲ把握セシメ以テ法カ國家ノ歷史的個性ノ具現ナルコトヲ理解セシムルニ力ムヘシ
- 三 法規ノ形式的解釋ニ終始スルコトナク之ト實際生活並ニ其ノ諸規範トノ關係ヲ把握セシムルニ力ムヘシ
- 四 經濟ノ教授ニ於テハ單ナル抽象的理論ノ教授ニ終始スルコトナク實際生活ニ即シ又我カ國民經濟及世界經濟ノ趨勢ニ留意シ經濟生活ト他ノ文化活動トノ相關的關係ヲ理解セシムルニ力ムヘシ
- 五 生徒ヲシテ物質文明ノ眞義ヲ理解セシメ以テ唯物論の見解ニ陥ルコトナカラシメ特ニ我カ國民經濟ノ特質ニ留意シ經濟ト道義トノ合一ノ必要ヲ悟ラシムルコトヲ要ス
- 六 他學科特ニ修身・哲學概説・歷史・地理科等トノ内容の連絡ニ留意スヘシ

七 教授内容ハ常ニ他學科トノ全體的統一ヲ失フコトナキヲ肝要トス隨ヒテ學科内容ノ決定ハ必ス慎重協議シテ之ヲナスヘク又學年ノ途中ニ於テモ隨時打合ヲ意ラサルヲ要ス苟モ相互ノ關係ヲ無視シ各科個々分立ノ弊ニ陥ルコトナキヲ要ス

八 尚教科書ノ選定ニツキテハ前同様ノ趣旨ニヨリ嚴密ニ注意シ統一の立場ヨリ之ヲ決定スヘシ
 教授事項ハ教授方針ノ徹底ヲ重視スヘク隨ヒテ各項目ニツキテハ適宜分合増減ヲ行ヒ且順序ノ變更ヲナスヲ妨ケサルモ全體的趣旨ニ戻ラサルヲ期スヘシ

第六 高等學校教員規程

文部省令第十號 (大正八年三月二十九日) (大正八年十二月省令第四十號大正九年五月同第十三號大正十年七月同第三十三號同年九月同第三十九號同十五年八月同第二十九號昭和十三年同二十二號ヲ以テ改正)

高等學校教員規程

- 第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス
- 第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高等學校高等科教員養成ニ關スル規定ニ依リ教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合格シタル者ト看做ス文部省在外研究員ニ關スル規定ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有スル者亦同シ

第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀ハ當該學科目ニ關シ高等學校尋常科教員免許狀タルノ効力ヲ有ス

第四條 教員檢定ハ受験者ノ學力、性行、身體ニ就キ之ヲ行フ

第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身	國語	漢文	英語
佛語	獨語	日本史及東洋史	西洋史
地理	哲學概說	心理及論理	法制及經濟
數學	物理	化學	植物
動物	地質及礦物	圖畫	

前項ノ學科目ニ就キ試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テ第九條第六號ノ受験者ニ對シテハ出願學科目ニ併セ本人ノ選擇ニ依リ英語、佛語、獨語ノ中一科目ニ就キ其ノ學力ヲ試驗スルモノトス但シ本人カ英語、佛語又ハ獨語ニ付中學校教員免許狀ヲ有スルトキ又ハ出願學科目カ英語、佛語、獨語ノ中一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條ノ二 日本史及東洋史ノ試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ日本史又ハ東洋史ノ成績佳良ナルトキハ教員檢定委員會長ハ其ノ部分ノ成績證明書ヲ授與スヘシ

前項ノ證明書ヲ受ケタル者更ニ日本史及東洋史ノ試驗檢定ヲ出願シタルトキハ其ノ證明書ニ記載セサル部分ニ付試驗ヲ行フ

第六條 試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テハ出願學科目ノ試驗ニ附隨シ其ノ教授法ヲ試驗スルモノトス

第七條 試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限及試驗ヲ行フヘキ學科目ハ文部大臣之ヲ告示シ試驗施行ノ期日及試驗ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長之ヲ公告ス

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書(第一號樣式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一 履歷書(第二號書式)及學業證書若ハ免許狀ノ寫

二 第九條第二號乃至第五號ニ該當スル者ニ在リテハ當該學校長ノ證明書(第三號書式)

三 醫師ノ身體檢查書(第四號書式)

四 戶籍抄本

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者

二 大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ試驗ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 高等師範學校ヲ卒業シタル者但シ修業年限二年ノモノヲ除ク

四 專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者

五 高等學校、大學豫科又ハ學習院高等科元高等學科ヲ卒業シタル者

六 當該學科目ニ關シ中學校教員免許狀ヲ有スル者

- 七 外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者
 - 八 外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者
 - 九 五年以上大學、大學豫科、高等學校、專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員タリシ者
- 前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一 前條第一項第一號、第二號及第九號ニ該當スル者
 - 二 高等師範學校專攻科若ハ之ニ準スヘキ學科ヲ卒業シタル者
 - 三 元東京高等商業學校專攻部ヲ卒業シタル者
 - 四 本邦ニ於テ高等學校若ハ之ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位又ハ卒業證書ヲ有スル者
- 第十一條 不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケントシタル者及檢定ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第十二條 高等學校專攻科教員ニ就テハ免許狀ヲ要セス

公立及私立ノ高等學校ニ於テ專攻科教員ヲ採用セントストキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 高等學校高等科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以内ヲ限り高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第十四條 體操ニ關シテハ高等科教員免許狀ヲ要セス

第十五條 高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

第十六條 公立及私立ノ高等學校ニ於テ第十三條ノ規定ニ依リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用セントストキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ體操ヲ擔任スル教員ノ採用ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條 高等學校尋常科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以内ヲ限り第三條ノ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ後三年間ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十三條ノ制限ヲ超エ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

本令施行前文部省直轄學校ノ勅任又ハ奏任ノ教官タリシ者ハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス(書式略ス)

第七官制

勅令第八十六號(明治二十六年八月)(明治二十九年五月ヨリ昭和十三年マテ數次改正)

文部省直轄學校官制(抄)

一 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

生徒主事

助教

書記

生徒主事補

前項職員ノ外文部省直轄諸學校職員定員令ノ定ムル所ニ依リ事務官又ハ助手ヲ置クコトヲ得

一 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

一 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

一 文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事ハ奏任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事ハ當該學校ノ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒主事ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

一 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

一 文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事補ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事補ハ判任トシ其ノ他ノ學校生徒主事補ハ當該學校ノ判任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

生徒主事補ハ上官ノ命ヲ承ケ生徒主事ノ職務ヲ助ク

一 事務官ハ奏任トス校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

一 助手ハ判任トス教授又ハ助教ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス

一 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若ハ學校長ニ於テ

特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

一 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

第八 文部省直轄諸學校ノ名譽教授及其ノ待遇ニ關スル件

勅令第二百二十四號(大正三年六月)(昭和四年改正)

高等師範學校又ハ文部省直轄諸學校ノ教育ニ付功勞顯著ナル者ニハ文部大臣ノ奏薦ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトヲ得

勅令第五百五十二號(大正四年八月)(昭和四年同九年同九月改正)

文部省直轄諸學校ノ名譽教授及其ノ待遇ニ關スル件

帝國大學名譽教授、官立大學名譽教授、高等師範學校名譽教授、文部省直轄諸學校名譽教授、陸軍名譽教授、海軍名譽教授及水産講習所名譽教授ハ、勅任官ヲ以テ待遇ス

第九 奏任文官判任文官ノ待遇ニ關スル件

勅令第二百二十三號 (大正十年五月)

第一條 高等官官等俸給令別表第二表第一號、第三表及第五表ニ依ル奏任官ニシテ引續キ五年以上高等官三等ニ在職シ功勞顯著ナル者ハ、特ニ之ヲ勅任官ノ待遇トナスコトヲ得

第二條 判任文官ニシテ引續キ五年以上一級俸ヲ受ケテ在職シ事務練熟優等ナル者ハ、特ニ之ヲ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

前項ノ規程ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ待遇相當官等ハ、高等官六等以下トス
第一項規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ハ、之ヲ主事ト稱ス

第十 職員定員令

勅令第五十九號 (明治三十五年三月) (明治四十年六月ヨリ昭和十三年マテ數次改正)

文部省直轄諸學校職員定員令(抄)

第二高等學校	校	長	教	授	生徒主事	助	教	授	書	記	生徒主事補
一	人	三	十	六	人	一	人	四	人	七	人
											一
											人

第十一 文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件

勅令第九十六號 (明治二十六年九月九日) (改正、大正九年七月十四日) (號、昭和四年四月十五號)

文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件(抄)

文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ、直轄諸學校長ハ、文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

第十二 直轄諸學校長職務規程

文部省訓令 (大正二年六月) (大正八年、九年訓令) (號外ヲ以テ改正)

第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條 校長事故アルトキハ、文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第三條 左ノ事項ハ、校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ、處分後文部大臣ニ報告スヘシ

第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト

- 第五 教官以下ノ除服出仕請假ニ關スルコト
- 第六 講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト
- 第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト
- 第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト
- 第四條 前條ニ掲ケタル事項ノ外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

第十三 學校醫職務規程

文部省令第三號

(昭和七年 二月一日) (昭和十年十號、同十二年四號、改正)

- 第一條 學校醫ハ少クトモ毎月一回教授時間内ニ於テ其ノ擔當學校ニ到リ左ノ事項ヲ調査スヘシ、但シ必要ニ應ジ調査事項ノ取捨ヲ行フコトヲ得
 - 一、校地、建物並設備ノ衛生ニ關スル事項
 - 二、校具ノ衛生ニ關スル事項
 - 三、教授衛生ニ關スル事項
 - 四、運動ニ關スル事項
 - 五、職員學生生徒兒童ノ健康狀態
 - 六、病者、虛弱者、精神薄弱者等ノ監督養護ニ關スル事項

七、清潔ニ關スル事項

八、飲料水並飲食物ニ關スル事項

九、其ノ他衛生上必要ナル事項

臨時必要アル場合ニ於テ學校醫ハ管理者又ハ學校長ノ請求ニ依リ特ニ前項各號ノ全部又ハ一部ニ就キ調査スヘシ

第二條

學校醫ハ學生生徒兒童中病者、虛弱者、精神薄弱者ヲ發見シ若ハ學校長其ノ他ノ職員ヨリ之ニ關スル通知アリタルトキハ其ノ狀況ニ依リ一科目若ハ數科目ノ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療、保護矯正等ヲ要スヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ

前項ノ異狀アル學生生徒兒童中就學猶豫、就學免除、休學、退學等ヲ要セサル者ニ對シ學校醫ハ繼續的ニ之ヲ監察スヘシ

第三條 學校醫ハ學校職員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第四條 學校醫ハ學校身體檢査規程ニ依リ身體檢査ヲ爲スヘシ

第五條 學校醫ハ學校傳染病豫防規程ニ依リ學校傳染病豫防ニ關スル事務ニ從事シ同規程第三條及第五條乃至第十條ノ場合ニ於テハ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ

第六條 學校醫ハ第二條第三條及第五條ニ掲ケタル場合ノ外學校衛生上必要ト認メタル事項ニ就キ管理者又ハ

學校長ニ申告スヘシ

第七條 學校醫ハ學校衛生ニ關シ學校長ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ述フヘシ

第八條 學校醫ハ學校長ノ請求ニ應ジ學生生徒兒童又ハ其ノ保護者等ニ對シテ衛生ニ關スル講話ヲ爲スヘシ

第九條 學校醫ハ其ノ調査シタル事項、執務ノ狀況、申告若ハ建議セル事項ニ就キ其ノ大要ヲ學校醫執務日誌ニ記入シ其ノ都度學校長ニ提出スヘシ

第十條 學校醫ハ本令ニ掲グルモノノ外官立學校、公私立ノ大學、高等學校及專門學校ニ在リテハ夫々當該學校長 其ノ他ノ學校ニアリテハ地方長官ノ命ヲ承ケ學校衛生ニ關スル職務ニ従事スヘシ

第十一條 本令ノ實施ニ關シ必要ナル規程ハ官立學校、公私立ノ大學、高等學校及專門學校ニ在リテハ夫々當該學校長、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 幼稚園醫ノ職務ニ付テハ前各條ノ規程ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四 學校身體檢查規程

文部省令第二號 (昭和十二年)

(一月二十七日)

學校身體檢查規程

第一條 學校ニ於テハ學生生徒兒童ノ身體ノ養護鍛鍊ヲ適切ニシ體位ノ向上ト健康ノ増進トヲ圖ル爲本令ニ依リ身體檢查ヲ施行スヘシ

第二條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキトキ又ハ學校醫身體檢查ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ在リテハ齒牙ノ檢查ハ學校齒科醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校職員、學校看護婦其ノ他適當ナル者ヲシテ身體檢查ノ一部ヲ補助セシムルコトヲ得

第三條 身體檢查ハ毎年四月ニ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ニ於テハ身長、體重、胸圍、坐高ノ測定ヲ除キ六月末日迄ニ之ヲ施行スルコトヲ得

第四條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ之ヲ施行スヘシ

身長、體重、胸圍、坐高、榮養、脊柱、胸廓、眼、耳、鼻及咽頭、皮膚、齒牙、其ノ他ノ疾病及異常

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢查ヲ行フコトヲ得

第五條 身體檢查ハ左ノ各號ニ準據シテ之ヲ施行スヘシ

一 身長、體重、胸圍及坐高ハ「センチメートル」、體重ハ「キログラム」ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒ單位ノ下一位ニ止ムヘシ

二 身長ノ測定ハ足袋、靴等ヲ脱シ兩踵ヲ密接シ背、臀部及踵ヲ尺柱ニ接シテ直立シ兩上肢ヲ體側ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保チ之ヲ測定スヘシ

學校身體檢查規程

- 三 體重ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ衣服ノ重量ヲ控除スヘシ
- 四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ背面ハ肩押骨ノ直下部、前面ハ乳頭ノ直上部ニ尺帶ヲ當テ安靜呼吸ノ終レルトキ之ヲ行フヘシ乳房ノ著シク膨隆セル女子ニ任リテハ尺帶ヲ少シク其ノ上方ニ當テ測定スルモノトス
- 五 坐高ハ腰掛ニ正坐セシメ上體ヲ垂直ニ保チ身長ノ測定方法ニ準シ坐面ヨリ顛頂マテノ距離ヲ測定スヘシ
- 六 榮養ハ皮膚ノ色澤、皮下脂肪ノ充實、筋骨ノ發達等ニ就キ検査スヘシ榮養ノ狀態普通以下ニシテ衛生上特ニ注意ヲ要スト認ムルモノヲ「要注意」トシ其ノ他ノモノヲ「可」トシ之ヲ記入スヘシ
- 七 脊柱ハ形態及疾病ニ就キ検査スヘシ
形態ハ生理的彎曲ヲ有スル者ヲ「正」トシ異常アル者ニ就テハ平背、圓背、龜背、側彎等ヲ區別スヘシ
疾病ハ特ニ「カリエス」ニ注意スヘシ
- 八 胸廓ハ形態、發育等ニ就キ検査スヘシ
異常アル者ニ就テハ扁平胸、漏斗胸、鳩胸等ヲ區別スヘシ
- 九 眼ハ視力、屈折異常、色神及眼疾ニ就キ検査スヘシ
視力ハ萬國式試視力表ニ就キ左右ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記入スヘシ但シ眼鏡ヲ常用スル者ニ就テハ裸眼視力ノ外更ニ其ノ眼鏡ヲ裝用シタル儘左右ノ視力ヲ検査シ括弧内ニ記入スヘシ
弱視失明等モ各眼ニ就キ記入スヘシ

- 屈折異常アル者ニ就テハ近視、遠視、亂視ノ種類ヲ各眼ニ就キ記入スヘシ
色神ハ異常ノ有無ヲ記入スヘシ
眼疾ハ特ニ「トラホーム」ニ注意スヘシ
尋常小學校第二學年以下ノ兒童ニ在リテハ視力、屈折異常及色神ノ検査ヲ省略スルコトヲ得
- 一〇 耳ハ聽力及耳疾ニ就キ検査スヘシ
聽力ハ適當ナル方法ニ依リ検査シ障礙ノ有無ヲ記入スヘシ
耳疾ハ特ニ中耳炎ニ注意シ耳聾栓塞アルトキハ耳疾欄ニ記入スヘシ
尋常小學校第二學年以下ノ兒童ニ在リテハ聽力ノ検査ヲ省略スルコトヲ得
- 一一 鼻及咽頭ハ鼻炎、鼻茸、蓄膿症、腺樣增殖症、扁桃腺肥大等ニ注意スヘシ
- 一二 皮膚ハ白癬、疥癬其ノ他ノ傳染性皮膚疾患、濕疹、頭虱等ニ注意スヘシ
- 一三 齒牙ハ齲齒ニ就キ検査シ虛置齒、未處置齒ニ分チテ其ノ數ヲ記入スヘシ
學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ在リテハ齲齒ノ數ハ更ニ乳齒、永久齒ニ分チテ記入シ又齒列異常其ノ他ノ齒疾ニ就テモ注意スヘシ
- 一四 其ノ他ノ疾病及異常ニ導テハ呼吸器、循環器、消化器、神經系等ヲ検査シ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患、貧血、脚氣、脫腸、神經衰弱、言語障礙、精神障礙、骨、關節ノ異常、四肢運動障礙等ノ發見ニカムヘシ

第六條 前條ノ検査ヲ終了シタルトキハ全身ノ状態ヲ綜合考察シ身體虛弱、精神薄弱又ハ疾病及異常ヲ有スル者ニシテ學校衛生上特別養護ノ必要アリト認ムルモノヲ「要養護」トシ然ラサルモノヲ「可」トシ、概評欄ニ記入スヘシ但シ大學、高等學校、專門學校並ニ之ト同等程度以上ノ學校ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

第七條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人又ハ其ノ保護者ニ通知スヘシ授業免除、就學猶豫、休學又ハ治療、保護、矯正等ヲ要スル者アルトキハ本人又ハ其ノ保護者ニ注意ヲ與ヘ適切ナル處置ヲ講セシムヘシ

學校ニ於テ必要アルトキハ健康相談、豫防處置、其ノ他適當ナル保健養護ノ施設ヲ講スヘシ

第八條 身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ第一號様式ノ身體検査票ニ記入シ本人在學中ニ使用スヘシ轉學シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ

身體検査票ハ學校長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第九條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ第二號様式ノ身體検査統計表ヲ調製シ其ノ年八月末日迄ニ直轄學校、公私立大學、高等學校、專門學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取經メ小學校以外ノ學校ニ就テハ其ノ年九月末日迄ニ、小學校ニ就テハ第二號様式ニ準シ道府縣身體検査集計表ヲ調製添附シ其ノ年十二月末日迄ニ文部大臣ニ送付スヘシ

第十條 監督官廳若ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫若ハ學校齒科醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ適當ナル項目ニ就キ臨時身體検査ヲ行フコトヲ得

第十一條 前各條ニ依ル身體検査ノ外就學、入學ニ關シ身體検査ヲ行フコトヲ得

第十二條 幼稚園幼兒ノ身體検査ニ就テハ本令ヲ準用ス

第十三條 大學ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ノ検査項目ニ據ラサル身體検査ヲ施行スルコトヲ得

第十四條 地方長官又ハ直轄學校、公私立大學、高等學校、專門學校ノ長ハ學校職員、傭人等ノ身體検査ニ關シ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十五條 地方長官ハ本令ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

第十六條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査ヲ行ハサルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

道府縣ニ於テ第九條第二項ノ集計表ヲ調製シ難キ事情アルトキハ當分ノ内之ヲ省略スルコトヲ得

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第三條ノ規定ニ拘ラス當分ノ内毎年九月末日迄ニ之ヲ施行スルトヲ得此ノ場合ニ於テハ第九條第一項ノ期限ハ十一月末日迄、同條第二項ノ期限ハ十二月末日迄トス

學生生徒児童身體検査規程ハ之ヲ廢止ス

(身體検査票及同統計表様式略ス)

第十五 發育概評決定標準

文部省訓令第九號 (大正九年) (昭和二年三月訓令) (第二號ヲ以テ改正)

發育概評決定標準(抄)

學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

- 一 七年ヨリ十八年マデノ男子ニ在リテハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ三者カ何レモ左記發育概評決定標準表ニ照シテ當該年齡ヨリ一年年長ノモノノ標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ一年年少ノモノノ標準以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルモノヲ丙トス
- 二 十九年以上ノ男子ニ在リテハ身長一六〇・六センチメートル、體重五三・六キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・三三四以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長一五七・〇センチメートル、體重四八・八キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇・三一以上ナルヲ乙トシテ甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス
- 三 前各號ニ於ケル被檢者ノ身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ計算ハ小數第三位ニ止メ第四位以下ハ切捨ツルモノトス

發育概評決定標準表 (抄) 十四年以下ヲ略ス

年	身	體	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
十	五	年	一四六・四
十	五	年	三八・二
十	五	年	〇・二六一

第十六 行幸啓ノ節學校職員學生々徒兒童敬禮方

文部省訓令第二十七號 (昭和十二年) (六月三日)

第一 學校職員及指揮者ノ位置並ニ部隊編成

學校長及職員ハ部隊ヲ編成シ最右翼ニ位置ス

指揮者ハ各部隊右翼ニ位置ス

御車又ハ御召列車カ左翼ヨリ御通過ノ節ハ前二項中右翼トアルヲ左翼トス

各部隊ノ長サハ地域其ノ他ノ情況ニ依リ一指揮者ノ指揮シ得ル範圍内ニ於テ適宜之ヲ定ム

第二 敬禮

甲 學生々徒兒童ノ敬禮

一 武裝セル場合

(一) 指揮者ハ豫メ著劍セシメ先乗カ其ノ部隊ノ先頭ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ御車カ

發育概評決定標準 行幸啓ノ節學校職員學生生徒兒童敬禮方

十	六	年	一五二・七	四四・五	〇・二九一
十	七	年	一五七・〇	四八・二	〇・三〇七
十	八	年	一五九・一	五〇・七	〇・三一九
十	九	年	一六〇・三	五二・六	〇・三二八

凡ソ二十五米ノ距離ニ近ツキタルトキ「捧ケ銃」ノ號令ヲ下シ御車カ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ十五米ノトキ「立テ銃」ノ號令ヲ下ス

(二) 御召列車御通過ノ節ハ指揮者ハ豫メ著劍セシメ御召列車カ其ノ部隊ヨリ凡ソ千米ノ距離ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ凡ソ百米ノ距離ニ於テ「捧ケ銃」ノ號令ヲ下シ御召列車カ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ六十米ノトキ「立テ銃」ノ號令ヲ下ス

二 武裝セサル場合(女子ヲ含ム)

(一) 立 禮

イ 指揮者ハ先乗カ其ノ部隊ノ先頭ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」「脱帽」ノ號令ヲ下シ御車ガ凡ソ六十米ノ距離ニ近ツキタルトキ「禮」ノ號令ニ依リ上體ヲ約三十度前方ニ屈セシメ直ニ「直レ」「頭右(又ハ左)」ノ號令ヲ下シテ目迎目送セシメ御車カ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ十五米ノトキ「直レ」ノ號令ヲ下シ不動ノ姿勢ニ復セシメ適當ノ時ニ「著帽」「休メ」ノ號令ヲ下ス

ロ 御召列車御通過ノ節ハ指揮者ハ御召列車カ其ノ部隊ヨリ凡ソ千米ノ距離ニ差懸リタルトキ「氣ヲ著ケ」「脱帽」ノ號令ヲ下シ御召列車カ凡ソ二百米ノ距離ニ近ツキタルトキ「禮」ノ號令ニ依リ上體ヲ約三十度前方ニ屈セシメ直ニ「直レ」「頭右(又ハ左)」ノ號令ヲ下シテ目迎目送セシメ御召列車カ其ノ部隊ヲ離ルルコト凡ソ六十米ノトキ「直レ」ノ號令ヲ下シテ不動ノ姿勢ニ復セシメ適當ノ時ニ「著帽」「休メ」ノ號令ヲ下ス

(二) 坐 禮

立禮ニ準ス但シ「氣ヲ著ケ」ノ號令ニテ端坐セシム

坐禮ノ場合ニ於ケル敬禮ハ兩手ノ指ヲ揃ヘ膝前約二十糎ノ所ニ八字形ニ置キ指尖ノ間約十糎トシ上體ヲ前方ニ屈シ額ハ坐面ヨリ約七・八糎ノ所迄下グルヲ度トス

(三) 武裝セル者ト武裝セサル者トハ各別ニ部隊ヲ編成スルヲ原則トスルモ兩者ヲ以テ一部隊ヲ編成セサルヘカラサルトキハ武裝セサル者ハ一ノ場合ニ於ケル「捧ケ銃」ノ號令ニ依リ頭右(又ハ左)ヲ爲シテ目迎目送シ「立テ銃」ノ號令ニ依リ元ノ姿勢ニ復スルモノトス

乙 學校職員及指揮者ノ敬禮

甲ニ準スルモノトス但シ指揮者帶刀ノ場合ニ在リテハ刀ニ依ル敬禮ヲ爲スモノトス

丙 校旗ノ敬禮

特別ノ場合ヲ除クノ外校旗ノ敬禮ヲ行フモノトス

校旗ノ敬禮ハ指揮者ノ下ニ「捧ケ銃(又ハ「禮」)」ノ號令ニテ校旗ヲ持スル腕ヲ前ニ伸シテ目迎目送シ「立テ銃(又ハ目迎目送後ノ「直レ」)」ノ號令ニテ其ノ腕ヲ元ノ位置ニ復スルモノトス

第三 服 裝

甲 制服ヲ著用スルモノトス 但シ服制ナキ場合ニアリテハ概ネ左ノ標準ニ依ル

一 男子職員

(一) 洋服ノ場合

成ル可ク「フロックコート」又ハ「モーニングコート」、「シルクハット」又ハ黒山高帽、黒靴トス
但シ春廣服(又ハ詰襟)、中折帽ヲ着用スルモ妨ナシ

(二) 和服ノ場合

成ル可ク紋附羽織、袴及足袋トス

二 女子職員

成可ク白襟紋服、袴及白足袋トス 但シ洋服ヲ著用スルモ妨ケナシ

三 學生生徒兒童

清楚ヲ旨トシ和服ノ場合ハ成可ク袴及足袋ヲ著用セシム

乙 「氣ヲ著ケ」ノ號令直前外套、コート、肩掛等ヲ脱キ傘ヲ疊ミ容儀ヲ整ヘシムヘキモノトス但シ外套ノ上

ニ武裝セル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

丙 雨雪ノ際ハ概ネ雨具著用ノ儘敬禮ヲ行フモノトス

附 則

明治四十三年文部省訓令第十八號行幸啓ノ節學生々徒敬禮方ハ之ヲ廢止ス

第十七 高等學校高等科學力檢定規程

文部大臣訓令號外 (大正十年十一月)

高等學校高等科ノ卒業者ニアラサル帝國大學又ハ官立大學學部入學志願者ニ對シ帝國大學學部又ハ官立大學ヨリ高等學校高等科學力檢定試驗施行ノ通告アリタルトキハ別紙規程ニ依リ試驗ヲ施行スヘシ

別 紙

高等學校高等科學力檢定規程

第一條 高等學校高等科學力檢定試驗ハ帝國大學學部又ハ官立大學ヨリ其ノ入學志願者ノ學力檢定試驗施行ノ通告アリタル場合ニ限リ高等學校ニ於テ施行ス

試驗ハ二月ニ於テ之ヲ施行ス

第二條 試驗ハ高等學校高等科卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ高等學校高等科ニ入學スル資格ヲ有セサル者ニ

ハ先ツ中學校第四學年迄ノ必修各學科目ニ就キ第四學年ノ修了ノ程度ニ依ル學力檢定試驗ヲ行フヘシ

第三條 試驗ヲ受ケントスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

既納ノ受験料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第四條 試驗ニ合格シタル者ニハ左式ノ證明書ヲ交付スヘシ

(證明書式略ス)

附 則

大學豫科學力檢定規程ハ之ヲ廢止ス

第十八 陸軍現役將校學校配屬令

勅令第三百三十五號 (大正十四年四月) (昭和四年同十年改正)

第一條 官立又ハ公立ノ師範學校、中學校、實業學校、高等學校、大學豫科、專門學校、高等師範學校、臨時教員養成所、實業學校教員養成所又ハ青年學校教員養成所ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬ス但シ戰時事變ノ際其ノ他止ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣又ハ文部大臣ト協議シテ之ヲ行フ

配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク

第二條 私立ノ中學校、實業學校、高等學校、大學豫科若ハ專門學校又ハ兵役法施行令第三百條第三號ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケタル私立學校ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲當該學校ノ申請ニ因リ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ將校ヲ配屬スル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

大學學部ノ申出アルトキハ前二項ノ規定ニ準シテ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコトヲ得

第三條 陸軍大臣及文部大臣ハ特別ノ事由アルトキハ本令ニ依リテ將校ノ配屬ヲ止ムルコトヲ得

第四條 陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リテ將校ヲ配屬シタル學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ查閱セシムルコトヲ得

第五條 官立又ハ公立ノ商船專門學校及商船學校ニハ第一條ノ規定ニ拘ラス將校ヲ配屬セサルコトヲ得
尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ノ實業學校以外ノ實業學校修業年限二年未滿ノ青年學校教員養成所及夜間ニ於テ教練ヲ課スル學校ニ就テハ第一條及第二條ノ規程ヲ適用セス

第六條 配屬將校傷痍疾病其ノ他己ムヲ得サル事故ニ因リ服務シ難キトキハ陸軍大臣ハ文部大臣ト協議シテ他ノ現役將校ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條又ハ第二條ニ規定スル諸學校ニシテ大正十四年二月一日以後ニ於テ設立シタルモノニハ當分ノ内將校ヲ配屬セサルコトヲ得

第十九 文部省直轄學校外國人特別入學規程

文部省令第十五號 (明治三十四年十一月)

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケ

ントスル者ハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ
第二條 前條ニ依ル教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ
第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限リ之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニアラス
第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科終了ノ證明書ヲ受ケントスル者ハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規程ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試験料、入學料及授業料ヲ徴收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ本令ニ關シテ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタル者ト看做ス

第八條 明治卅三年文部省令第十一號文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

備考

昭和五年一月二十七日官專九號通牒(前略) 中華民國政府ハ留學證書發給規程ヲ公布シ留學資格ヲ本國高級中學校卒業以上ノモノニ限定シソレ以下ノ者ノ留學ニ關シテハ監督處ニ於テ紹介致ササルコトトナリタリ(後略)

附 錄

第一、在學生徒並入學志願者入學者及卒業生科類別表 (昭和十五年四月三十日調)

種 別	生 徒		入 學 志 願 者	入 學 者	卒 業 者			
	第一學年	第二學年				第三學年		
文 科	甲 類	四四	三七	三〇	一一一	三一四	四〇	二八
	乙 類	四四	三八	三七	一一九	二四六	四〇	二三
科 計	八八	七五	六七	二三〇	五六〇	八〇	五一	
理 科	甲 類	一一〇	一二四	八九	三三三	六七一	一二〇	八七
	乙 類	八一	八二	五八	二二一	四三六	八〇	五五
利 計	二〇一	二〇六	一四七	五五四	一、一〇七 △二七	二〇〇	一四二	
總 計	二八九	二八一	二一四	七八四	一、六六七 △二七	二八〇	一九三	

備考 入學志願者中△印ハ獨語受験者ニシテ何レモ内數ヲ示ス

第二、生徒年齢表 (昭和十五年四月三十日調)

種別	最高年齢		最低年齢		平均年齢	
	文科	理科	文科	理科	文科	理科
第一學年	二五、 二〇、	二五、 二〇、	一六、 一六、	一六、 一六、	一八、 一八、	一八、 一八、
第二學年	二二、 二〇、	二二、 二〇、	一七、 一七、	一七、 一七、	一九、 一九、	一九、 一九、
第三學年	二三、 二五、	二三、 二五、	一八、 一七、	一八、 一七、	二〇、 二〇、	二〇、 二〇、
計	二一、 一九、	二一、 一九、	一七、 一六、	一七、 一六、	一九、 一九、	一九、 一九、

第三、生徒本籍別表 (昭和十五年四月三十日調)

道府縣	文科	理科	計
北海道	一九	二六	四六
東北道	二〇	二六	四六
關東道	一八	二〇	三八
關西道	一六	一七	三三
北陸道	一六	一七	三三
東海	一六	一七	三三
近畿	一六	一七	三三
山陽	一六	一七	三三
山陰	一六	一七	三三
四國	一六	一七	三三
北海道	一六	一七	三三
計	一七	一九	三六

臺朝樺沖鹿熊佐宮大福高愛香德和山

兒歌

灣鮮太繩島本賀崎分岡知媛川島山口

| 二 二 | 一 | 二 一 | | 三 二 一 二 |

| 五 | 一 一 二 | | 三 四 一 | 二 二 一 六

| 七 二 一 二 二 二 一 三 四 一 三 四 三 三 六

廣岡島鳥富石福秋山青岩福宮長岐滋

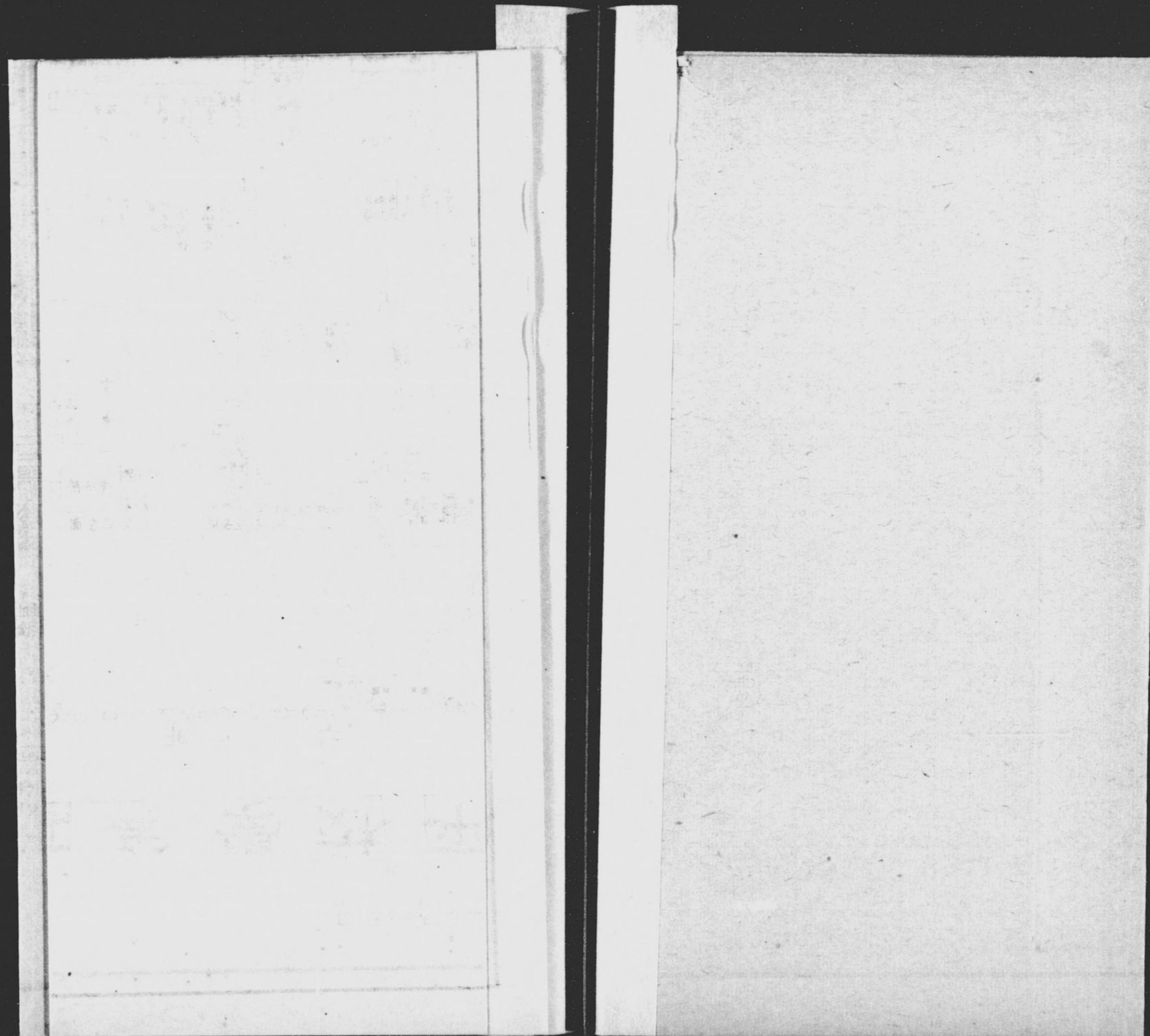
島山根取山川井田形森手鳥城野阜賀

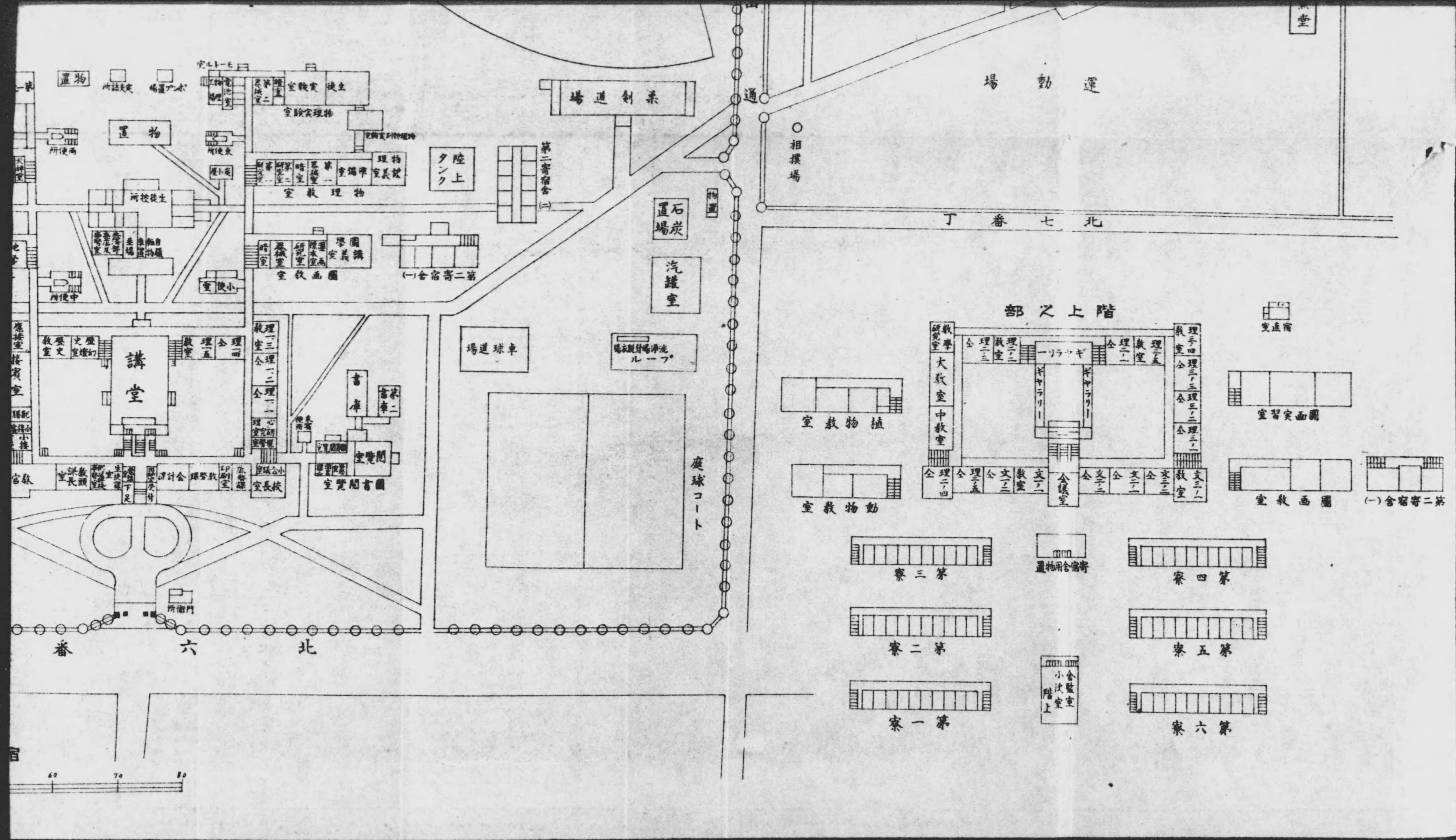
三 一 | | 二 一 | 四 九 四 一 二 五 九 一 一

二 四 四 | 二 二 三 八 一 五 八 二 五 五 一 五 八 一 五 二 二

五 五 四 | 四 三 三 一 二 四 二 三 八 〇 二 七 二 四 三 三

滿洲國 中華民國 總計	三 三三〇	 五五四	 七八四
-------------------	---------------	--------------	--------------





菜剣道場

運動場

相撲場

北七番丁

階上之部

車球道場

洗滌場

テニスコート

植物教室

動物教室

大教室
中教室

寄宿舎用遺物

宿舎

面習室

面教室

(一) 第二寄舎

寮三第

寮四第

寮二第

寮五第

寮一第

小會館
階上

寮六第

北六番

60 70 80

昭和十五年九月七日印刷
昭和十五年九月十日發行

編輯者兼
發行者

第二高等學校

仙臺市北六番丁

本校 電話 四四四五番

寄宿舍 電話 三二一五番

印刷者

山

本

晃

仙臺市教樂院丁六番地

印刷所

東北印刷株式會社

仙臺市教樂院丁六番地
電話 八六〇・二八七番

